授業科目	救急医療	寮概論 [	3		担当教員	阿部 鯛一			
対象年次・学期	1年・追	<b>通年</b>		必何	 多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	23 🛽	時間数		
授業目的						命士としての役害 にとって必要な基			
到達目標	活動の	ながれ、	救急活動におい	て必要	更な法令、コミ	災害医療体制につ ュニケーション、 概念について説明	安全管理と	事故対応、感染	
テキスト・ 参考図書等	・改訂	第 11	版 救急救命士	標準テ	キスト				
	評価が	評価方法 評価割合(%) 評価基準							
	試験 70				D.T.A. T. 7				
評価方法・	レポー		0		式験配分 病院前医療 80	0%			
評価基準	小テス	<u> </u>	30	• }	去医学 20%		_ <del></del>		
	提出物		0	定期記	式験・小テスト	·等を基に総合的は	二評価する。		
履修上の 留意事項	豊富な	科目なの 私語・排	     療経験を元に救急   Dで、途中で効果   携帯オフ、   居眠	測定を	0いろはを学んでいく。これから救急救命士を目指す過程で 行い、目標到達度の評価を行う。 遅刻・中途退室の厳 提出物の期限厳守、 その他授業の進行に差し障りのある				
<b>尼收</b>			履修主題			履修	 内容		
履修主題・ 履修内容	1	救急求 (1)	対命士の現状と未	来	救急救命士务	 発展の歴史			
	2	` ,	<b>対命士の現状と未</b>	来	救急救命士の活躍				
	3	職業選	選択の自由につい	て	職業としての救急救命士について				
	4	人間性	生と自立について	•	救急救命士に必要な人間性とは何か				
	5	救急图	₹療人としての活	躍	世界の救急医療体制と日本の現状				
	6	現場で	で活躍する救急救	命士	消防機関で活躍する救急救命士				
	7	成長夠	隆達 (1)		発達の区分				
	8	成長夠	Ě達 (2)		各発達の理解(グループワーク)				
	9	成長夠	蓬達(3)		各発達の理解	解 ( グループワー?	) ( ל		
	10	成長夠	隆達(4) (川原	島)	発表				
	11	救急图	医療体制		病院前医療、	救急医療システム	ム、救急医療	体制の一元化	
	12	病院前	前救護体制		救命の連鎖、	市民による一次を	效命処置		
	13	病院前	前救護体制		メディカルコ	コントロール			
	14	消防機 の流れ	態関における救急 ι	活動	119 番受信と	:通信体制、救急;	舌動の記録		
	15	救急求	対命士と傷病者の	関係	接遇とコミニ	ιニケーション			
	16	救急求	<b>対命士に関連する</b>	法令	救急救命士法 医療法	t、医師法、保健 <b>自</b>	师助産師 <b>看</b> 護	師法、消防法、	
	17	救急求 育	対命士の養成と生	涯教	救急救命士の養成課程と生涯教育、病院実習				
	18	安全管	管理と事故対応		安全管理、傷病者の事故、救急救命士等の事故				
	19	感染対	対策		感染予防策、感染事故と対応				
	20	ストレ メント	νスに対するマネ ►	ージ	救急活動での	ンストレス			

21	法医学(1)	法医学の分野(死体の検案および解剖、自然死と異常 死) 死の概念				
22	法医学(2)	死体現象(早期死体現象。後期死体現象、特殊な死体現象)				
23	法医学(3)	窒息、損傷、凍死について				

授業科目	救急医療概論 B	担当 教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
1文未行口	<b>水心区/駅№間 ロ</b>	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	- 数名字:	対急病態生理学 A			担当教員	田中則之					
<b>技兼行</b>	秋 志 内 :	8.土壤 7	- A		担当教具	四中 則之					
対象年次・学期	1年・復	<b></b>		必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的	患の根が	底に存在	Eする、生体の機	能が症	らい に変化した	って認められる徴 状態を反映する。 症状・徴候の理解	ここでは、原	患者さんから現			
到達目標	症状、月	所見から	<b>ら病態鑑別を行</b> し	1、必要	<b>見な救急処置が</b>	できる。					
テキスト・ 参考図書等	・改訂	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト									
	評価方法 評価割合(%)					評価基準					
	試験										
評価方法・	レポー	-	0								
評価基準	小テス	7	30	定期記	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。						
	提出物		0								
履修上の 留意事項		後の授業				、他の病態にも関 理解するため、毎					
履修主題・	0		履修主題			履修 履	 内容				
履修内容	1	呼吸不	全		原因と病態生理、症候						
	2	呼吸不	全		原因と病態生理、症候						
	3	呼吸不	全		原因と病態生理、症候						
	4	心不全	<u></u>		原因と病態生	理、症候					
	5	心不全	<u> </u>		原因と病態生	理、症候					
	6	心不全	<u></u>		原因と病態生	理、症候					
	7	ショッ	ノク		原因と病態生理、症候						
	8	ショッ	ノク		原因と病態生	理、症候					
	9	ショッ	ノク		原因と病態生	理、症候					
	10	重症脳障害			原因と病態生理、症候						
	11	重症脳障害			原因と病態生						
	12	重症脳障害			原因と病態生	理、症候					
	13	心肺停止			原因と病態生理、症候						
	14	心肺停			原因と病態生						
	15	心肺停	<u></u> 計		原因と病態生	理、症候					

授業科目	救急病態生理学 A	担当 教員	田中則之		       救急救命士として救急業務に従
技兼行日	权忌俩忠主连子 A	実務 経験	有:	無:	事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

								1		
授業科目	救急病療	態生理学	<b>Ž</b> B		担当教員	田中 則之				
対象年次・学期	1年・復	<b></b>		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	患の根が	底に存在	Eする、生体の機	能が症	病的に変化した	って認められる徴 状態を反映する。 症状・徴候の理解	ここでは、鳥	患者さんから現		
到達目標	症状、原	新見か <i>ら</i>	ら病態鑑別を行い	1、必要	更な救急処置が	できる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂	第 11	版 救急救命士	標準テ	キスト					
	評価方法 評価割合(%)					評価基準				
	試験 70									
評価方法・	レポー	<b>ぺート</b> 0								
評価基準	小テス	-	30	定期記	<b>ば験・小テスト等を基に総合的に評価する。</b>					
	提出物		0							
	その他	<b>=</b> 1= 88 /:	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	. > 1= 4	- 2	小の庁能によ問	きせるさい	h chi la the annual la		
履修上の 留意事項		後の授業				、他の病態にも関 理解するため、毎				
履修主題・	回		履修主題			履修2	容			
履修内容	1	呼吸不	<b>全</b>		原因と病態生理、症候					
	2	呼吸不	「全		原因と病態生理、症候					
	3	呼吸不	全		原因と病態生理、症候					
	4	心不到	<u></u>		原因と病態生	Ξ理、症候				
	5	心不全	È		原因と病態生	Ξ理、症候				
	6	心不全	È		原因と病態生	Ξ理、症候				
	7	ショッ	ノク		原因と病態生	Ξ理、症候				
	8	ショッ	ノク		原因と病態生	Ξ理、症候				
	9	ショッ	ノク		原因と病態生	 :理、症候				
	10	重症肌			原因と病態生					
	11	重症脳障害			原因と病態生					
	12	重症脳障害			原因と病態生理、症候					
	13	心肺停止			原因と病態生理、症候					
	14	心肺傷			原因と病態生理、症候					
	15	心肺停			原因と病態生					
	•				原因と病態生理、症候					

授業科目	救急病態生理学 B	担当 教員	田中則之		救急救命士として救急業務に従
技兼行日	权忌俩恋主连子 D	実務 経験	有:	無:	事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	救命処	置 A			担当教員	菩提寺 浩			
対象年次・学期	1年・復	<b></b>		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間	
授業目的	現場活動 応を習行		要な知識を習得し	,的確	な判断、処置	、観察を実施し一	連の活動をヨ	理解し実際の対	
到達目標	救急救í る。	命士がエ	見場で行う、観察	<b>軽及び処</b>	1置、緊急度・	重症度判断に関す	る基本事項を	を説明ができ	
テキスト・ 参考図書等	・改訂	第 11	版 救急救命士	標準テ	キスト				
	評価を	評価方法 評価割合(%) 評価基準							
	試験		80						
評価方法・	レポー	٢	0		式験 80%				
評価基準	小テス	<u> </u>	0		テスト提出状況 ポ騒・提出物等	! 20% を基に総合的に評	価する		
	提出物		10	V_*/10	以	で坐に心口のに可	IЩ У <b>О</b> °		
屋修上の	その他	ナレオス	10						
履修上の 留意事項		講義形式とする。必要に応じて器材等を活用する。基礎解剖生理の知識を基に傷病者観察の基本 を学ぶ。							
履修主題・	回		履修主題			履修 [	容		
履修内容	1	観察約	<b>総論</b>		観察の目的と	:意義、生命徴候 <i>0</i>	項目		
	2	観察総	<b></b>		救急現場活動	かで必要な観察と問	診の方法		
	3	全身制	犬態の観察		外見の観察、	気道観察、呼吸 <i>0</i>	性状		
	4	全身制	状態の観察 ニュー		循環に関する	<b>観察</b>			
	5	全身制	犬態の観察		意識状態に関	する観察			
	6	局所の	D観察		皮膚、頭部、	顔面、頸部の観察	察		
	7	局所の	D観察		胸、腹部の観察				
	8	局所の	D観察		指趾、爪、皮膚の異常と浮腫				
	9	神経所	<b>折見の観察</b>		運動麻痺の種類と特徴				
	10	神経凡	<b>听見の観察</b>		運動麻痺の観	!			
	11	緊急度	度・重症度判断		緊急度と重症	<b>E度の概念と基準</b>			
	12	中間ま	<b>きとめ</b>		全身、局所額	[察中間まとめ			
	13	救急求	攻命士が行う処置	<u> </u>	気道確保と異	<b>建物除去方法</b>			
	14	救急求	攻命士が行う処置	į	声門上気道テ	「バイスを用いた気	道確保		
	15	救急求	枚命士が行う処置	į	酸素投与方法	<u></u>			
	16	救急求	女命士が行う処置	i	人工呼吸の方	ī法			
	17	救急求	女命士が行う処置	i	胸骨圧迫				
	18	救急救命士が行う処置			電気ショック	7			
	19	救急求	女命士が行う処置	Ė	静脈路確保と輸液				
	20	救急求	枚命士が行う処置	į.	体位管理と創傷処置				
	21	救急求	<b>対命士が行う処置</b>	Ė	救急蘇生法				
	22	在宅图	医療傷病者への対	応	在宅酸素療法	t、血液透析			
	23	救命処	L置のまとめ		救急救命士か	「実施する観察と処	畳まとめ		
	l .	1			1				

授業科目	救命処置 A	担当 教員	阿部	鯛一	-	救急救命士として救急医療に従
1XX17 L	が叩だ重ハ	実務 経験	有:		無:	事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	救命処	置 B			担当教員	菩提寺 浩			
対象年次・学期	1年・復	<b></b>		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	23 回	時間数	45 時間	
授業目的	現場活動 応を習行		要な知識を習得し	,、的確	な判断、処置	、観察を実施し一	連の活動をヨ	理解し実際の対	
到達目標	救急救í る。	命士が理	見場で行う、観察	<b>軽及び処</b>	1置、緊急度・	重症度判断に関す	る基本事項を	を説明ができ	
テキスト・ 参考図書等	・改訂	第 11	版 救急救命士	標準テ	キスト				
	評価が	評価方法 評価割合(%) 評価基準							
	試験		80						
評価方法・	レポー		0		式験 80%				
評価基準	小テス	<u> </u>	0		テスト提出状況 試験・提出物等	! 20% を基に総合的に評	価する		
	提出物		10	X2,434	2002		ш, о,		
 履修上の	その他	ナレオス	10   10   10   10   10   10   10   10						
留意事項		講義形式とする。必要に応じて器材等を活用する。基礎解剖生理の知識を基に傷病者観察の基本を学ぶ。							
履修主題・			履修主題		履修内容				
履修内容	1	観察総	<b>公論</b>		観察の目的と	:意義、生命徴候の	項目		
	2	観察約	<b>公論</b>		救急現場活動	かで必要な観察と問	診の方法		
	3	全身制	状態の観察		外見の観察、	気道観察、呼吸 <i>の</i>	性状		
	4	全身制	状態の観察		循環に関する	観察			
	5	全身制	状態の観察		意識状態に関	する観察			
	6	局所の	D観察		皮膚、頭部、	顔面、頸部の観察	ξ		
	7	局所の	D観察		胸、腹部の観察				
	8	局所の	D観察		指趾、爪、皮膚の異常と浮腫				
	9	神経所	<b>折見の観察</b>		運動麻痺の種類と特徴				
	10	神経凡	<b>听見の観察</b>		運動麻痺の観察方法				
	11	緊急原	度・重症度判断		緊急度と重症	<b>E度の概念と基準</b>			
	12	中間ま	<b>きとめ</b>		全身、局所額	[察中間まとめ			
	13	救急求	攻命士が行う処置	<u> </u>	気道確保と異	<b>建物除去方法</b>			
	14	救急求	攻命士が行う処置	ŧ _	声門上気道を	「バイスを用いた気	道確保		
	15	救急求	枚命士が行う処置	į	酸素投与方法	<u></u>			
	16	救急求	枚命士が行う処置	į	人工呼吸の方	 ī法			
	17	救急求	女命士が行う処置	i	胸骨圧迫				
	18	救急救命士が行う処置			電気ショック	7			
	19	救急救	枚命士が行う処置	į.	静脈路確保と輸液				
	20	救急求	女命士が行う処置	Ė	体位管理と創傷処置				
	21	救急救	女命士が行う処置	i.	救急蘇生法				
	22	在宅图	医療傷病者への対	応	在宅酸素療法	 法、血液透析			
	23	救命処	L置のまとめ		救急救命士か	 「実施する観察と処	L置まとめ		
	l				L				

授業科目	救命処置 B	担当 教員	阿部鯛—		     救急救命士として救急医療に従
1又来作口	<b>秋叩处</b> 直 D	実務 経験	有:	無:	事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	教養 /	4			担当教員	工藤 哲也					
対象年次・学期	1年・消	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間			
授業目的			扰職試験の一般知 くための論理的思			、数学の基礎的な	知識や文章詞	売解をベース			
到達目標	各単元の	の基礎問	問題が各自で解答	できる	3ようになる。						
テキスト・ 参考図書等			リーズ:数的推理 リーズ:判断推理								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		70								
評価方法・	レポー		0								
評価基準	小テス	<b></b>	20	定期詞	式験・小テスト	・提出物等を基に	総合的に評	価する。			
	提出物		10								
屋依上の	その他	トッパ日日日	0	レナシス	たずに白た種類的	に留女才 2:	- ト 控業だけ				
履修上の 留意事項		講義および問題演習中心の授業となるが、受身にならずに自ら積極的に解答すること。授業だけ ではなく家庭でも反復練習をすることにより実力が更にアップする。									
履修主題・	回		履修主題			履修内	內容				
履修内容	1	公務員	員試験概要 (工	藤)	救急救命士へ	の道のりについて	・試験問題	解説			
	2	数的推	建理 (工藤)		濃度						
	3	数的推	建理 (工藤)		濃度						
	4	数的推	建理 (工藤)		年齢						
	5	数的推	建理 (工藤)		年齢						
	6	判断推	建理 (阿部)		対応関係						
	7	数的推	建理 (工藤)		年齢						
	8	判断推	建理 (阿部)		対応関係						
	9	数的推	建理 (工藤)		仕事算						
	10	判断推	建理 (阿部)		対応関係						
	11	数的推	建理 (工藤)		仕事算						
	12	判断推	建理 (阿部)		試合・勝敗						
	13	数的推	建理 (工藤)		旅人算						
	14	判断推	建理 (阿部)		試合・勝敗						
	15	数的推	建理 (工藤)		旅人算						
	16	判断推	建理 (阿部)		論理						
	17	数的推	建理 (工藤)		通過算						
	18	判断推	建理 (阿部)		論理						
	19	数的推	建理 (工藤)		流水算						
	20	判断推	建理 (阿部)		集合・人数						
	21	数的推	建理 (工藤)		一次方程式						
	22	判断推	建理 (阿部)		集合・人数						
	23	数的推	建理 (工藤)		連立方程式						
					1						

24	判断推理 (阿部)	うそつき
25	数的推理 (工藤)	不等式
26	判断推理 (阿部)	うそつき
27	数的推理 (工藤)	売買損益
28	判断推理 (阿部)	暗号
29	数的推理 (工藤)	まとめ
30	判断推理 (阿部)	まとめ

授業科目	教養 A	担当教員	工藤 哲也		
JAKITH	7AR //	実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	教養 [	3			担当教員	工藤 哲也				
対象年次・学期	1年・通年				多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間		
授業目的		公務員試験や就職試験の一般知能分野へ対応すべく、数学の基礎的な知識や文章読解をベース に、解答を導くための論理的思考方法を学ぶ。								
到達目標	各単元の基礎問題が各自で解答できるようになる。									
テキスト・ 参考図書等		・絶対合格シリーズ:数的推理・資料解釈 ・絶対合格シリーズ:判断推理・空間把握								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		70							
評価方法・	レポー		0	·	DEA.	Indian section		( <del></del>		
評価基準	小テス	<u> </u>	20	定期記	式験・小テスト	・提出物等を基に	総合的に評	価する。		
	提出物		0							
 履修上の		上7以門具		レかる	が 受息にか	 らずに自ら積極的	に解答する	ニレ		
留意事項			でも反復練習をす				ICM+D 9 0 0	こ C。 1文来/C1)		
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	公務員	員試験概要 (工	藤)	救急救命士への道のりについて・試験問題解説					
	2	数的推	建理 (工藤)		濃度					
	3	数的推	建理 (工藤)		濃度					
	4	数的推	建理 (工藤)		年齢					
	5	数的推	建理 (工藤)		年齢					
	6	判断拍	性理 (阿部)		対応関係					
	7	数的推	建理 (工藤)		年齢					
	8	判断拍	性理 (阿部)		対応関係					
	9	数的推	建理 (工藤)		仕事算					
	10	判断拍	生理 (阿部)		対応関係					
	11	数的推	建理 (工藤)		仕事算					
	12	判断拍	建理 (阿部)		試合・勝敗					
	13	数的推	建理 (工藤)		旅人算					
	14	判断拍	生理 (阿部)		試合・勝敗					
	15	数的推	建理 (工藤)		旅人算					
	16	判断拍	建理 (阿部)		論理					
	17	数的推	建理 (工藤)		通過算					
	18	判断批	建理 (阿部)		論理					
	19	数的推	建理 (工藤)		流水算					
	20	判断拍	建理 (阿部)		集合・人数					
	21	数的推	建理 (工藤)		一次方程式					
	22	判断拍	建理 (阿部)		集合・人数					
	23	数的推	建理 (工藤)		連立方程式					

24	判断推理 (阿部)	うそつき
25	数的推理 (阿部)	不等式
26	判断推理 (阿部)	うそつき
27	数的推理 (工藤)	売買損益
28	判断推理 (阿部)	暗号
29	数的推理 (工藤)	まとめ
30	判断推理 (阿部)	まとめ

授業科目	教養 B	担当教員	工藤 哲也	,	
1文米11口	MR D	実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	形態機能 能)A	<b>能学</b> (1	解剖、身体機		担当教員	藤島輝			
対象年次・学期	1年・通	年・通年 必修			多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間	
授業目的	各器官0	各器官の構造と機能を学ぶことにより、その後に学ぶ救急医学の基礎を作ること。							
到達目標	正常な丿	正常な人体の肉眼的構造を学び、その機能について理解する。							
テキスト・ 参考図書等			版 救急救命士 分 第3版	標準テ	キスト				
	評価方	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		70						
評価方法・	レポート		0						
評価基準	小テスト	_	0	定期記	式験・小テスト	・仮テスト・提出	出物・態度で	評価する。	
	提出物		30						
 履修上の		との位置		レ学で	、	心に フライド	プロント ホ	<b>造刑かどを用い</b>	
留意事項		人体臓器の位置構造をしっかりと学ぶ。教科書を中心に、スライド、プリント、模型などを用い て講義を行う。							
履修主題・	回		履修主題		履修内容				
履修内容	1	解剖学	学序論 一		講義オリエンテーション				
	2	人体を	E構成する要素		細胞 組織 器官 体液				
	3	体表が	いらみる人体の構	造	人体の位置・方向、体表からみた構造・名称、身体の各部   位				
	4	神経系	<b>\{</b>		神経系の構成、中枢神経系 末梢神経 自律神経 脳神経				
	5	神経系	<b>\{</b>		神経系の構成、中枢神経系、末梢神経系、自律神経、脳神 経				
	6	神経系	<b>\{</b>		神経系の構成、中枢神経、末梢神経、自律神経、脳神経				
	7	神経系	<b>{</b>		神経系の構成、中枢神経系、末梢神経、自律神経、脳神経				
	8	感覚系	<b>\(\)</b>		視覚器、平衡感覚器、味覚器、嗅覚器				
	9	呼吸系	<u> </u>		気道、胸郭、肺、ガス交換、呼吸の働き				
	10	呼吸系	<del>(</del>		気道、胸郭、肺、ガス交換、呼吸の働き				
	11	呼吸系	<b>\{</b>		気道、胸郭、肺、ガス交換、呼吸の働き				
	12	循環系	<b>\{</b>		循環機の構成	t、心臓、脈管、(f	1環の制御		
	13	循環系	<b>\{</b>		循環系の構造	5、心臓、脈管、循	盾環の制御		
	14	循環系	<b>\{</b>		循環系の構成	t、心臓、脈管、(f	1環の制御		
	15	循環系	<del>{</del>		循環系の構成	t、心臓、脈管、(f	盾環の制御		
	16	消化系	<b>\{</b>		口腔・咽頭、	消化管、肝臓・胆	旦道、膵臓、	腹膜・腹腔	
	17	消化系	<del>{</del>		口腔・咽頭、	消化管、肝臓・肌	旦道、膵臓、	腹膜・腹腔	
	18	泌尿系	<b>\{</b>		腎臓、尿管、	膀胱、尿道			
	19	生殖系	<b>\{</b>		男性生殖器、	女性生殖器			
	20	内分泌	必系		内分泌器官、	ホルモン			
	21	内分泌	8系		内分泌器官、	ホルモン			
	22	血液・	免疫系		血液、血球、	血漿、骨髄、脾脈	蔵、止血と凝	固、免疫	

23	血液・免疫系	血液、血球、血漿、骨髄、脾臓、止血と凝固、免疫
24	筋・骨格系、皮膚系	四肢の主な骨格筋、骨・関節、靱帯・腱、脊柱の構造、皮 膚の構造、皮膚の役割
25	生命の維持	栄養素と代謝、恒常性
26	定期テスト対策	人体を構成する要素~感覚系までの総復習
27	定期テスト対策	呼吸系~消化系までの総復習
28	定期テスト対策	泌尿系~生命の維持までの総復習
29	定期テスト対策	今までの総復習問題
30	定期テスト対策	前回の解答・解説、自習

授業科目	形態機能学 (解剖、身体機 能)A		藤島輝
	,	実務 経験	有: 無:
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員	
授業形態		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務経験	

授業科目	形態機能 能)B	 作学 (1	解剖、身体機		担当教員	藤島 輝			
対象年次・学期	1年・通	<b>通年</b>		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間	
授業目的	各器官の	各器官の構造と機能を学ぶことにより、その後に学ぶ救急医学の基礎を作ること。							
到達目標	正常な人体の肉眼的構造を学び、その機能について理解する。								
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 10 版 救急救命士標準テキスト ・生体のしくみ 第 3 版								
	評価方	法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		70						
評価方法・ 評価基準	レポート		0	÷***	ŤĔĠ . JU == ¬ I	ᄷᆂᆸᆸᄥᄼᄡᄓ	- ≒亚/ <del>正 -</del> -		
11四松牛	小テスト   提出物		0	<b></b>	1.級・小アスト	・等を基に総合的に	- 計1川95。		
	その他		30						
履修上の 留意事項			置構造をしっかり	)と学ぶ	ぶ。教科書を中	心に、スライド、	プリント、柞	模型などを用い	
履修主題・	回		履修主題			履修风	内容		
履修内容	1	解剖学	卢序論		講義オリエンテーション				
	2	身体を	E構成する要素		細胞 組織 器官 体液				
	3	体表が	いらみる人体の植	造	人体の位置・方向、体表からみた構造・名称、身体の各部   位				
	4	神経系	<del>\</del>		神経系の構成、中枢神経系 末梢神経 自律神経 脳神経				
	5	感覚系	<b>₹</b>		視覚器、平衡聴覚器、味覚器、臭覚器				
	6	呼吸系	<b>{</b>		気道 胸郭 肺 ガス交換 呼吸の働き				
	7	循環系	<b>\{</b>		循環系の構成 心臓 脈管 循環の制御				
	8	消化系	<del></del>		口腔・咽頭 消化管 肝臓・胆道係 膵臓 腹膜・腹腔				
	9	泌尿系	<del></del>		腎臓、尿管、膀胱、尿道、				
	10	中間確	<b>奎認</b>		人体の構造~泌尿系(問題演習)				
	11	生殖系	<b>\{</b>		男性生殖器	女性生殖器			
	12	内分泌	X系 ————————————————————————————————————		内分泌器官 ホルモン				
	13	血液・	免疫系		血液 血球	血漿 骨髄 脾脈	嵐 止血と凝	固 免疫	
	14	筋・骨			四肢の主な骨	骨・関節 ・関節	靭帯・腱	脊柱の構造	
	15	皮膚系			皮膚の構造				
	16	生命絲	<b>挂持</b> ————————————————————————————————————		栄養素と代謝	村 恒常性			
	17	講義の	)まとめ		練習問題				
	18	18 解剖学総合演習			人体の構造と	機能			
	19		2総合演習		神経系				
	20	中間確				6維持(問題演習)	)		
	21		学総合演習		呼吸系				
	22		学総合演習		循環系				
	23	解剖学	2総合演習		消化系				

24	解剖学総合演習	泌尿系
25	解剖学総合演習	内分泌系
26	解剖学総合演習	血液・免疫系
27	解剖学総合演習	国試頻出問題
28	解剖学総合演習	練習問題
29	解剖学総合演習	練習問題
30	総合確認	問題演習

授業科目	形態機能学 (角	解剖、身体機	担当教員	松井	公汰	
	能)B		実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1 年・通年		担当 教員			
授業形態			実務 経験			
			担当教員			
			実務 経験			
			担当教員			
			実務 経験			
			担当教員			
			実務 経験			
			担当教員			
			実務 経験			
			担当教員			
			実務 経験			
			担当教員			
			実務 経験			
			担当 教員			
			実務 経験			
			担当 教員			
			実務 経験			
			担当教員			
			実務経験			

授業科目	形態機能学 (生理、生化学)A				担当教員	池江 蔵			
対象年次・学期	1年・前	前期		必何	 多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的		人体を構成している細胞に共通する生理機能と血液の組織、免疫等を理解し、生命現象の基本である呼吸、循環の機能および消化、吸収、排泄の仕組みを理解する。							
到達目標	人体の作りと役割を細胞、組織の概念から説明できる。								
テキスト・ 参考図書等			版 救急救命士 ナ 第3版	標準テ	キスト				
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		80						
評価方法・	レポー	_	0						
評価基準	小テス	٢	20	定期記	式験・小テスト	·等を基に総合的に	評価する。		
	提出物		0						
		その他 0   0   救急救命士標準テキストを中心に、参考書を使用しながら進めていく。予習・復習をしっかり						17 1	
履修上の 留意事項			≢ナキストを中心 検に影響する。	いに、多	参考書を使用し	なから進めていく	。予督・復む	望をしつかりし	
履修主題・			履修主題		履修内容				
履修内容	1	生理学	学総論・情報の伝	達	細胞の構造と機能・細胞内外間の物質の移動 興奮の発生と伝道・シナプス伝達・細胞内情報伝達				
	2	筋系			筋収縮のメカニズム(骨格筋・平滑筋・心筋)				
	3	神経系	<del>-</del>		神経の構造・中枢神経系(脳、脊髄)、末梢神経系				
	4	血液系	系・免疫系		血液の成分と働き(赤血球・血小板)免疫のしくみ・白血 球の役割・アレルギー				
'	5	循環器	<b>器系</b>		循環器系のしくみと働き・血管の構造と機能・血圧・リン パ液の働き				
	6	呼吸器	<b></b>		呼吸器系の構造・呼吸筋の働き				
	7	消化器	器系		消化管の構造と機能・消化と吸収				
	8	泌尿器	<b>器系</b>		腎臓の基本的機能・ネフロン・腎不全・利尿薬				
	9	内分泌	必系		内分泌総論・HPA axis・甲状腺ホルモン・膵臓ホルモンと糖尿病・性ホルモンなど				
	10	生化学謝	ዸ総論・糖類・糖	質代	糖質の分類・ 電子伝達系・	グルコースの化学 糖新生	型構造・解糖	系・TCA 回路・	
	11	生化学	2総論・糖類		糖質の分類・	グルコースの化学	<b>华構造</b>		
	12	脂質代謝			脂質代謝・ク 生合成	「トン体・脂肪酸σ	)生合成・コ	レステロールの	
	13	タンノ	<sup>ぱク</sup> 質・アミノ酸	}	ミノ酸代謝・				
	14	核酸の ク質合	D性質・DNA・タ R成	ッンパ	核酸塩基の5	}類・DNA の構造 ァ質の合成	・DNA の合	成・mRNA の合	
	15	ビタミ	ミン		ビタミンのタ	}類(脂溶性、水溶	胜) 役割		

授業科目	形態機能学 (生	理、生化学)A	担当教実務		
対象年次・学期	1年・前期		担当教員		
授業形態			実務経験		
			担当教員		
			実務 経験		
			担当教員		
			実務 経験		
			担当教員		
			実務 経験		
			担当 教員		
			実務経験		
			担当 教員		
			実務 経験		
			担当教員		
			実務 経験		
			担当教員		
			実務 経験		
			担当教員		
			実務 経験		
			担当教員		
			実務 経験		

授業科目	形態機能	能学 (	生理、生化学)B		担当教員	3当教員 池江 蔵			
 対象年次・学期	1年・前	前期		必何	 多・選択区分	必修	単位数		
						15 回	———— 時間数	30 時間	
授業目的						□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	理解し、生命	L 命現象の基本で	
到達目標	人体の作	作りと後	<b>殳割を細胞、組</b> 縞	の概念	なから説明でき	る。			
テキスト・ 参考図書等			版 救急救命士 分 第3版	標準テ	キスト				
	評価方法 評価割合(%)					評価基準			
	試験		80						
評価方法・	レポー	٢	0						
評価基準	小テス	٢	20	定期記	式験・小テスト	等を基に総合的に	評価する。		
	提出物		0						
	その他								
履修上の 留意事項	救急救命士標準テキストを中心に、参考書を使用しながら進めていく。予習・復習をしっかりし   ないと定期試験に影響する。								
履修主題・			履修主題			履修内	容		
履修内容	1	生理等	学総論・情報の伝	達		∴機能・細胞内外間 ∴伝道・シナプス伝			
	2	筋系			筋収縮のメカニズム(骨格筋・平滑筋・心筋)				
	3	神経系	<del>-</del>		神経の構造・中枢神経系(脳、脊髄)、末梢神経系				
	4	血液系	系・免疫系		血液の成分と働き(赤血球・血小板)免疫のしくみ・白血 球の役割・アレルギー				
	5	循環計	器系		循環器系のしくみと働き・血管の構造と機能・血圧・リン パ液の働き				
	6	呼吸器	<b>器系</b>		呼吸器系の構造・呼吸筋の働き				
	7	消化器	<b></b>		消化管の構造	もと機能・消化と吸	切		
	8	泌尿器	<b></b>		腎臓の基本的	機能・ネフロン・	腎不全・利	尿薬	
	9	内分泌	必系			HPA axis・甲状 tホルモンなど	腺ホルモン	・膵臓ホルモン	
	10	生化学謝	ዸ総論・糖類・糖	質代	糖質の分類・ 電子伝達系・	グルコースの化学 糖新生	増構造・解糖	系・TCA 回路・	
	11	生化学	2総論・糖類		糖質の分類・	グルコースの化学	構造		
	12	脂質化	<b></b>		脂質代謝・ク 生合成	「トン体・脂肪酸の	)生合成・コ	レステロールの	
	13	タンノ	<sup>ぱク</sup> 質・アミノ酸	}	ミノ酸代謝・				
	14	核酸の ク質合	D性質・DNA・タ R成	ッンパ	核酸塩基の分成・タンパク	}類・DNA の構造 ァ質の合成	・DNA の合	成・mRNA の合	
	15	ビタミ	シ		ビタミンの分	〉類(脂溶性、水溶	性) 役割		

授業科目	形態機能学	(生理、生化学)B	担当教員	
			経験	
対象年次・学期	1年・前期		担当教員	
授業形態			実務 経験	
			担当 教員	
			実務経験	
			担当教員	
			実務 経験	
			担当 教員	
			実務 経験	
			担当 教員	
			実務 経験	
			担当教員	
			実務 経験	
			担当教員	
			実務 経験	
			担当教員	
			実務 経験	
			担当教員	
			実務経験	
			担当教員	
			実務経験	

授業科目	健康と	社会保障	章 A		担当教員	担当教員   今谷 正則			
対象年次・学期	1年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	どのよ	うな位置	・医療に関する業 置を占め、救急救 こそれに関わる法	命士に	はどのような役	割を受け持ってい			
到達目標			D仕組みと現状に 会福祉を支える仕						
テキスト・ 参考図書等		第 10 ント資料	版 救急救命士樹 斗	票準テ	キスト				
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		90	_					
評価方法・	レポー		0						
評価基準	小テスト			定期記	式験・課題提出	状況等を基に総合	合的に評価す	る。	
	提出物		10						
履修上の 留意事項	従来保健医療従事者にとって、保健医療(公衆衛生)に関する制度や関係法規は関心が薄い等、 理解が難しい分野といわれてきたが、憲法にも規定されているように、保健医療(公衆衛生)は 社会福祉とともに国民の健康な生活を保障するための社会保障制度を構成する柱であり、現在で は理論や技術だけではなく、社会政策と考えられるようになってきていることを理解して勉学に 励んでもらいたい。								
履修主題・			履修主題			履修	内容		
履修内容	1	保健图	医療制度(1)		医療を取り巻く環境				
	2	保健图	医療制度(2)		医療供給体制				
	3	保健图	医療制度(3)		公衆衛生				
	4	保健图	医療制度(4)		環境保健				
	5	保健图	医療制度(5)		労働衛生・学校保健				
	6	保健图	医療制度(6)		母子保健				
	7	保健图	医療制度(7)		老人保健				
	8	保健图	医療制度(8)		地域保健				
	9	保健图	医療制度(9)		国民医療費の	)動向、給付率と	負担率		
	10	保健图	医療関係法規(1)	1		は・保健師助産師			
	11	保健图	医療関係法規(2)		薬事法・臓器  法	<b>縁を植法・感染症</b> 液	去(予防接種	法 )・健康増進	
	12	社会倪		1)	社会保障と社	と会福祉の概念・	社会保障給付	と国民負担	
					社会福祉関係法規・社会福祉の現状				
	13	社会假	保障と社会福祉(2	2)	社会福祉関係	法規・社会福祉の	の現状		
	13 14		保障と社会福祉(2 制度(1)	2)	社会福祉関係医療保険制度		の現状		

授業科目	健康と社会保障 A	担当 教員	今谷正則		保健所において衛生行政に携わ
1文朱1十口	(年) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本	実務 経験	有:	無:	り、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	健康と	社会保障	ĝ Β		担当教員	担当教員   今谷 正則			
対象年次・学期	1年・前	<b></b>		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	どのよ	うな位置		命士に	はどのような役	制度を理解し、そ 割を受け持ってい ぶ。			
到達目標			O仕組みと現状に 会福祉を支える仕						
テキスト・ 参考図書等		第 10 ント資料	版 救急救命士樹 斗	票準テ	キスト				
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		90						
評価方法・	レポー	-	0						
評価基準	小テス	7		定期記	式験・課題提出	状況等を基に総合	的に評価す	る。	
	提出物		10						
履修上の 留意事項	従来保健医療従事者にとって、保健医療(公衆衛生)に関する制度や関係法規は関心が薄い等、 理解が難しい分野といわれてきたが、憲法にも規定されているように、保健医療(公衆衛生)は 社会福祉とともに国民の健康な生活を保障するための社会保障制度を構成する柱であり、現在で は理論や技術だけではなく、社会政策と考えられるようになってきていることを理解して勉学に 励んでもらいたい。								
履修主題・	回		履修主題			履修	内容		
履修内容	1	保健医	医療制度(1)		医療を取り巻く環境				
	2	保健图	麼療制度(2)		医療供給体制				
	3	保健图	麼療制度(3)		公衆衛生				
	4	保健图	麼療制度(4)		環境保健				
	5	保健图	医療制度(5)		労働衛生・学	校保健			
	6	保健医	医療制度(6)		母子保健				
	7	保健医	医療制度(7)		老人保健				
	8	保健图	医療制度(8)		地域保健				
		保健医療制度(9)			国民医療費の動向、給付率と負担率				
	9	保健医	医療制度(9)		国民医療費の	動向、給付率と負	負担率		
	9		E療制度(9) E療関係法規(1)		医療法・医師	5法・保健師助産的	<b>师看護師法・</b>		
		保健图			医療法・医師		<b>师看護師法・</b>		
	10	保健图	医療関係法規(1)		医療法・医師 薬事法・臓器 法	5法・保健師助産的	师看護師法・ 去(予防接種	法 )・健康増進	
	10	保健图	医療関係法規(1) 医療関係法規(2)	1)	医療法・医師 薬事法・臓器 法 社会保障とを	5法・保健師助産的 発移植法・感染症)	师看護師法・ 法(予防接種 社会保障給付	法 )・健康増進	
	10 11 12	保健图 保健图 社会例	医療関係法規(1) 医療関係法規(2) R障と社会福祉(	1)	医療法・医師 薬事法・臓器 法 社会保障とを	京法・保健師助産的 は は は 会福祉の概念・ で で は は は は は は は は は は は は は は は は は	师看護師法・ 法(予防接種 社会保障給付	法 )・健康増進	

授業科目	健康と社会保障 B	担当 教員	今谷正則		保健所において衛生行政に携わ
1文米17口	KWC IT A INTE	実務 経験	有:	無:	り、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	国語・文章理解 A				担当教員	湊 久恵			
対象年次・学期	1 年・復			必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	公務員	試験(孝	效養、SPI、SCO	A)の[	国語及び文章理解について基礎力を養成する。				
到達目標	社会を上げる		て必要最低限の国	語表現	見ができる。	文章理解は、公	務員試験の理	見代文の正解率	
テキスト・ 参考図書等			国家一般職(高卒 学習トレーニング			・文章理解 第二版(日本漢字f	能力検定協会	編)	
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		60						
評価方法・	レポー	٢	0						
評価基準	小テス	7	30	定期記	E期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。				
	提出物		0						
<b>—</b> , .	その他		10						
履修上の 留意事項	ノート	を準備す	すること。学生の	能力は	より内容を変	更することがある	0		
履修主題・	回		履修主題			履修内	內容		
履修内容	1	ガイタ	ブンス		公務員試験の文章理解、四字熟語				
	2	文章理	里解、国語		文章理解(内容把握 ) 四字熟語				
	3	文章理	里解、国語		文章理解(内容把握 ) 四字熟語				
	4	文章理	里解、国語		文章理解(内容把握 ) 四字熟語				
	5	文章理	里解、国語		文章理解(内容把握 ) 四字熟語				
	6	文章理	里解、国語		文章理解(内容把握)、四字熟語				
	7	文章理	里解、国語		文章理解(内	容把握) 四字熟	語		
	8	文章理			文章理解(空		<b></b>		
	9	文章理			文章理解(空	E欄補充 ) 四字熟i	<del></del>		
	10	文章理			文章理解(文	(章整序) 四字熟詞	語		
	11	文章理	里解、国語		文章理解(文	(章整序) 四字熟	語		
	12	文章理	 里解、国語		文章理解過去	 問チェック、四字	 <sup>2</sup> 熟語		
	13	国語			国語過去問チ		<u> </u>		
	14		里解、国語		消防官採用試	 【験の傾向分析、四	字熟語		
	15	文章理	里解、国語		SPI 対策、S0	COA 対策、四字熟	語		

授業科目	国語・文章理解 A	担当教員	湊久恵 有:	無:	
対象年次・学期	1 年・後期	経験 担当	ъ.	<del></del>	
		教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	国語・	文章理網	¥В		担当教員	湊 久恵					
 対象年次・学期	1 年・領	 复期		必何	 俢・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的	公務員	試験(教	效養、SPI、SCO		国語及び文章理解について基礎力を養成する。						
到達目標	社会を上げる	-	て必要最低限の国	国語表現	見ができる。	文章理解は、公	務員試験のヨ	見代文の正解率			
テキスト・ 参考図書等	・地方を	初級・国 漢字等	国家一般職(高卒 学習トレーニンク	<sup>또</sup> 者) <b>ラ</b> デ3 /準	デキスト 国語 2/2級 改訂!	・文章理解 第二版(日本漢字	能力検定協会	<b>論</b> 編)			
		評価方法 評価割合(%)				評価基準					
	試験		60								
評価方法・ 評価基準	レポー		0			<i>σσ</i> → ₩ ι~ <i>μ</i> ν ∧ <i>δ</i> ← ι~	- ÷= /= -= =				
- 計画季年	小テス   提出物		30	正期記	明試験・小テスト等を基に総合的に評価する。						
	た山初		10								
履修上の 留意事項		を準備す		能力に	こより内容を変	更することがある	0				
履修主題・	回		履修主題			履修	内容				
履修内容	1	ガイタ	ブンス		公務員試験 <i>0</i>	公務員試験の文章理解、四字熟語					
	2	文章理	里解、国語		文章理解(内容把握 ) 四字熟語						
	3	文章理	里解、国語		文章理解(内容把握 ) 四字熟語						
	4	文章理	里解、国語		文章理解(内容把握) 四字熟語						
	5	文章理	里解、国語		文章理解(内容把握)四字熟語						
	6	文章理	里解、国語		文章理解(内	字把握) 四字熟	語				
	7	文章理	里解、国語		文章理解(内	容把握) 四字熟	語				
	8	文章理	里解、国語		文章理解(空	E欄補充) 四字熟	語				
	9	文章理	里解、国語		文章理解 ( 空	<b>空欄補充) 四字熟</b>	語				
	10	文章理	里解、国語		文章理解(文		語				
	11	文章理	里解、国語		文章理解 (文	て章整序) 四字熟	語				
	12	文章理			文章理解過去	 問チェック、四号	字熟語				
	13	国語			国語過去問チ	<del>-</del> ェック、四字熟詞	五				
	14	文章理	里解、国語		消防官採用記	 ば験の傾向分析、□					
	15	文章理	里解、国語		SPI 対策、S0	COA 対策、四字熟	·語				

授業科目	国語・文章理解 B	担当教員	湊久恵		
		実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
			l		l .

授業科目	情報処3	理 A			担当教員	赤尾 みどり				
 対象年次・学期	1 年・前	 前期		必何		必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	ータ操作	作法の基	基礎を学ぶ。また	、文書	処理ソフト、	シーを身につける 表計算ソフト、ブ 効活用するための	レゼン作成と	ノフトなどを活		
到達目標	文書を					表計算ソフト イドが作成できる		⊅図が作成でき		
テキスト・ 参考図書等	必要に	応じてえ	プリントを配付							
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		50							
評価方法・	レポー	<b></b>	0	夕計	全の平均占 500	4.担业物学250	0/ 左甘に必く	>的/=		
評価基準	小テス	٢	0	古武物る。	東の平均点 50%	0、提出初扒洗 50	70で埜に総合	6を基に総合的に評価す		
	提出物		0	_						
	その他	1 <del>+1</del> 5 🖶 2	50							
履修上の 留意事項	授業は指定の教室で行なうので時間までに着席していること。 説明と実習(実習がメイン) 高校の必修教科「情報」で学ぶ Windows の基本操作(日本語入力、フォルダの新規作成、ファ イルの移動・コピー、開く・閉じる等)は、既習であることを前提とする。 積み重ねの演習が 多いので休まずに出席すること。									
履修主題・			履修主題			履修[	内容			
履修内容	1	情報处	<b>処理の基礎</b>			インターネットの基礎(情報セキュア・著作権と個人情報 の概念)、クラウドの基礎概念、MS365 の設定と基礎				
	2	情報処	<b>処理の基礎</b>		MS365 の基礎(アプリの使い方、ファイル共有)					
	3	文書化	比の基本		効率的な文字	入力と変換、記号	骨の出し方、	辞書の使い方		
	4	文書化	との基本		作表、画像・図形の利用					
	5	文書化	との基本		練習問題					
	6	表計算	算ソフトの活用		データ入力と	ロークシートの約	集			
	7	表計算	算ソフトの活用		四則演算と関	関数の基礎、作表と	:編集(1)			
	8	表計算	算ソフトの活用		四則演算と関	関数の基礎、作表と	:編集(2)			
	9	表計算	算ソフトの活用		グラフ表現の	)要点とグラフ作品	ţ			
	10	表計算	算ソフトの活用		練習問題					
	11	プレt の活用	ヹンテーションソ fl	フト	スライド編集	€、文字装飾と図冊	の活用			
	12	プレt の活用	ヹンテーションソ 月		特殊効果(ク	ブラフ、図形の活用	引) 表・画像	象の挿入		
	13	プレt の活用	ヹンテーションソ 月	フト	資料作成とフ	プレゼンの作成(1	)			
	14	の活用			資料作成とフ	プレゼンの作成(2	)			
		Iプレナ	ヹンテーションソ	フト	総合演習、プレゼンテーション					

授業科目	情報処理 A	担当教員	赤尾みど	ני	情報処理系企業にてシステム開発に従事しており、当該科目の教
		実務 経験	有:	無:	育を行う
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	情報処理	理 B			担当教員	赤尾 みどり				
対象年次・学期	1年・前	前期		必作	と 選択区分	必修	単位数			
授業形態						15 回	時間数	30 時間		
授業目的	ータ操作	作法の基	基礎を学ぶ。また	、文書	処理ソフト、	シーを身につける 表計算ソフト、プ 効活用するための	レゼン作成と	ノフトなどを活		
到達目標	文書					表計算ソフト イドが作成できる		や図が作成でき		
テキスト・ 参考図書等	必要に	必要に応じてプリントを配付								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		50							
評価方法・	レポー	٢	0	夕計	全の平均占 500	る・提出物状況 50	04 左甘に必る	≻的仁証佈★		
評価基準	小テス	٢	0	る。	*(7十圴無 50)	0°提出初扒加30	70で至に続け	コロバC AT IM 9		
	提出物		0							
	その他	1+地字7	50	ᅎᄜ	までに美帝し	ていること。 説	田レ中羽(9	<b>ショネがく インハ</b>		
履修上の 留意事項	高校の	必修教和 移動・I	斗「情報」で学る	、Wind じる等	ows の基本操作	作(日本語入力、) あることを前提と	フォルダの新	f規作成、ファ		
履修主題・			履修主題			履修四	内容			
履修内容	1	情報処	旦理の基礎			トの基礎(情報も ラウドの基礎概念。				
	2	情報处	 1理の基礎		MS365 の基礎(アプリの使い方、ファイル共有)					
	3	文書化	どの基本		効率的な文字入力と変換、記号の出し方、辞書の使い方					
	4	文書化	どの基本		作表、画像・図形の利用					
	5	文書化	どの基本		練習問題					
	6	表計算	算ソフトの活用		データ入力と	ロークシートの紙	集			
	7	表計算	ダソフトの活用		四則演算と関	関数の基礎、作表と	:編集(1)			
	8	表計算	ダソフトの活用		四則演算と関	関数の基礎、作表と	:編集(2)			
	9	表計算	ダソフトの活用		グラフ表現の	)要点とグラフ作成	į			
	10	表計算	ダソフトの活用		練習問題					
	11	プレt の活用	ヹンテーションソ 引	フト	スライド編集	『、文字装飾と図形	の活用			
	12		ヹンテーションソ	フト	特殊効果(ク	ブラフ、図形の活用	ま・画像	象の挿入		
	13	の活用			資料作成とフ	プレゼンの作成(1	)			
	14	の活用			資料作成とフ	プレゼンの作成(2	)			
	15	プレt の活用	ヹンテーションソ 月	フト	総合演習、フ	プレゼンテーション	,			

授業科目	情報処理 B	担当教員	赤尾みど		情報処理系企業にてシステム開 発に従事しており、当該科目の教 育を行う
		経験	有:	無:	目を打つ
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	心肺停」	上 A			担当教員	三上 剛人					
対象年次・学期	1年・前	前期		必值	冬・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	8 回	時間数	16 時間			
授業目的	心肺停」	上の病態	態に関する基礎知	識を学	£/ <b>Š</b> \°,						
到達目標	心肺腫 心肺腫	日本における心肺停止の現状を知る 心肺蘇生に必要な用語を覚える 心肺蘇生の手順を知る 医療者向け BLS を手順通りに実施できる									
テキスト・ 参考図書等		・救急蘇生法の指針 2020(医療従事者用) ・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト									
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		80								
評価方法・	レポー	٢	20	خت±⊐±،	<b>+E</b> ← 000/						
評価基準	小テス	۲	0		式験 80% 試験・レポート	20%					
	提出物		0								
	その他		0								
履修上の 留意事項	心肺停」	上を医院	犬を調べ学習しま 学的根拠を基に解 ズムに則った演習	説して		得します。					
履修主題・	0		履修主題			履修四	内容				
履修内容	1	原因と	 :病態		心停止、呼吸	と 停止後の病態					
	2	心停」	上の易学		時間的要因、	蘇生の可能性					
	3	心停」	上の心電図		心静止・VF	・PEA、重症不整服	IK				
	4	心停」	上の判断		呼吸観察、循	環観察、DNAR					
	5	蘇生			根拠と方法	した と方法					
	6	BLS			BLS の手順解	军説					
	7	BLS			BLS 実技指導	į					
	8	BLS			BLS 実技指導	į					

授業科目	心肺停止 A	担当教員	三上剛人		救命救急センターにおいて看護 師として救急医療に従事し、当該
IXXIII	Complete A	実務 経験	有:	無:	科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	心肺停」	上 B			担当教員	三上	剛人			
対象年次・学期	1年・前	前期		必何	き・選択区分	必修		単位数		
授業形態					授業回数	8 回		時間数	16 時間	
授業目的	心肺停」	上の病態	態に関する基礎知	識を学	<u> </u>					
到達目標	心肺 心肺	蘇生に娘 蘇生の引	る心肺停止の現状 必要な用語を覚え F順を知る BLS を手順通りに	る						
テキスト・ 参考図書等		・救急蘇生法の指針 2020(医療従事者用) ・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト								
	評価フ	方法	評価割合(%)				評価基準			
	試験		80							
評価方法・	レポー	۲	20	<b>*</b> **==+:	±FA 000/					
評価基準	小テス	٢	(1)		式験 80% 式験・レポート	20%				
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項	心肺停」	上を医	犬を調べ学習しま 学的根拠を基に解 ズムに則った演習	説して		得しま	<del>ं</del> <b>र</b> े			
履修主題・	回		履修主題				履修P	内容		
履修内容	1	原因と	<b>二病態</b>		心停止、呼吸	停止後	色の病態			
	2	心停」	上の易学		時間的要因、	蘇生の	)可能性			
	3	心停」	上の心電図		心静止・VF	· PEA、	重症不整肌	IK		
	4	心停」	上の判断		呼吸観察、循	環観察	₹、DNAR			
	5	蘇生			根拠と方法					
	6	BLS			BLS の手順解	解説				
	7	BLS			BLS 実技指導					
	8	BLS			BLS 実技指導	<b>1</b>				

授業科目	心肺停止 B	担当教員	三上剛人		救命救急センターにおいて看護 師として救急医療に従事し、当該
IXXIII	- C	実務 経験	有:	無:	科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	心理学	A			担当教員	菊谷 敬子				
対象年次・学期	1年・前	前期		必作	冬・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	のかをタ	知り,人		動を理	のメカニズムや理論などをどのように明らかにしてきている 理解する.他者の心・行動基盤を理解するだけではなく,自 う.					
到達目標						手法などを説明す 深められるように		きるようにな		
テキスト・ 参考図書等			ニに授業を進める 士標準テキスト』			る場合もある.参 うる.	参考図書に関	しては ,『改訂第		
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー		0							
評価基準	小テス	<b>-</b>	20	定期記	試験・小テスト	等を基に総合的に	に評価する。			
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項	授業は	講義形式	<b>弋で行う</b> .							
履修主題・			履修主題		履修内容					
履修内容	1	心理等	<u> </u>			とは?心理学の! :つけるマインド:		.(ワーク:勉		
	2	認知心	 )理学		感覚・知覚					
	3	認知心	· 沙理学		記憶					
	4	認知心	·····································		思考					
	5	社会心	·····································		対人知覚					
	6	社会心			社会的影響					
	7	社会心	 ン理学		集団					
	8	社会心	 )理学		性格					
	-				情動・ストレス理論					
	9	臨床心	 沙理学・発達心理	学	情動・ストレ	· ス理論				

授業科目   心理学 A   一						
大学期   1年 · 前期   担当員   大学   2	授業科日	心理学 A	担当教員	菊谷敬子		
1	12×111	10×2 j / N	実務経験	有:	無:	
経験	対象年次・学期	1年・前期	担当 教員			
教員 実経 担教 実施 しゅう はいかい しゅう はい しゅう しゅう はい しゅう はい しゅう しゅう はい しゅう しゅう はい しゅう はい しゅう はい しゅう しゅう はい しゅう しゅう はい しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう はい しゅう	授業形態		実務 経験			
経験 担当員 実際験 担教 実際験			担当 教員			
教員 実際 担對員 実際 担教 実際 担對員 医腺 担当员 医腺 担当员 医腺 担当员 医腺 担当员 医腺 担当员 医腺 地方 医皮肤						
経験 担教 実際 担教 実経 担教 実務験			担当教員			
教員 実務 担教 実務 担教 実務 担教 実務 担教 養務 担教 養務 担教 養務 担教 養務 担教 養務 担教 養務 担教 養務 担教 養務 担教 養務 担教 養務 担教 長 養養 担教 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長			実務 経験			
<ul> <li>経験</li> <li>担当教 実務験</li> <li>担教 実務験</li> </ul>			担当教員			
教 実経 担教 実終 担教 実務						
経験       担有       実務       担有       実験       担有       実験       担有       実験       担有       実務       担有       実務			担当教員			
教員       実務       担当員       実験       担当員       実験       担当員       実験       担当員       実験       担当員       実務			実務 経験			
経験 担当 支務験 担当 支 務験 担当 支 表験 担当 支 表験 担当 支 実務験						
教員       実務       担当       教員       実務       担当       教員       実務       担当       教員       実務			実務 経験			
経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員			担当教員			
教員       実務       経験       担当       教員       実務       経験       担当       教員       実務			実務 経験			
経験 担当 教員 実務 経験 担当 教員 実務			担当教員			
教員       実務       経験       担当       教員       実務			実務経験			
経験       担当       教員       実務			担当教員			
教員			実務経験			
実務			担当教員			
			実務 経験			

授業科目	心理学	В			担当教員	菊谷 敬子	菊谷 敬子			
対象年次・学期	1年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	のかを	知り,人		動を理	異解する.他者	理論などをどのよ の心・行動基盤を				
到達目標						手法などを説明す 深められるように		きるようにな		
テキスト・ 参考図書等	配布資料をもとに授業を進める.進行順番は前後する場合もある.参考図書に関しては,『改訂第 11 版救急救命士標準テキスト』などを使う予定である.									
	評価を	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	١	0							
評価基準	小テス	<b>-</b>	20	定期記	試験・小テスト	・実験参加等をも	とに総合的	に評価する.		
	提出物		0							
履修上の 留意事項	その他 授業は	講義形式	0 <u> </u> tで行う.							
履修主題・	回		履修主題			履修四	内容			
履修内容	1	心理等	<u> </u>		心を研究するとは?心理学の歴史をたどる.(ワーク:勉 強習慣を身につけるマインドを作る)					
	2	認知心			感覚・知覚		/			
	3	認知心	)理学		記憶					
	4	認知心			思考					
	5	社会心			対人知覚					
	6	社会心	 ン理学		社会的影響					
	7	社会心			集団					
	8	社会心			性格					
	9	臨床心	 い理学・発達心理	学	情動・ストレ	 ノ <b>理論</b>				
	10	全体の	)まとめ		講義内容の総	括				

授業科目	心理学 B	担当教員	菊谷敬子		
323011	<u> </u>	実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	生命と何	建康 A		扫	旦当教員	本間	宗一郎				
対象年次・学期	1年・前	前期		必修	・選択区分	必修		単位数			
授業形態				持	受業回数	10 回		時間数	20 時間		
授業目的	・生命。	と健康で	をめぐる現代社会	の諸問	題を倫理的観	点からす	考える方法	を学ぶ。			
到達目標			∂倫理学の基本的 D考えを述べられ			解し、そ	その理解に	基づいて生命	命医療の諸問題		
テキスト・ 参考図書等	・参考[	・スライド資料を用意する ・参考図書:改訂版 入門・医療倫理 (赤林朗編、勁草書房、2017年)、はじめて出会う生命倫理 (玉井・大谷編、有斐閣、2011年)									
	評価が	方法	評価割合(%)				評価基準				
	試験		0								
評価方法・	レポー	٢	70								
評価基準	小テス	٢	0	レポー	ト・提出物等	をもと	に総合的に	:評価する。			
	提出物		30								
	その他		0								
履修上の 留意事項	適宜参	考文献を	と紹介するので可	能な範目	囲で目を通し	て問題の	D背景を理	解することが	が望ましい。		
履修主題・	回		履修主題				履修P	内容			
履修内容	1	イント	<b>-</b> ロダクション		講義内容の概観、進め方と評価基準の確認、生命倫理学に ついての説明など						
	2	倫理等	<b>学概論</b>		倫理学という学問がどのようなものかについての説明						
	3	規範係	<b>扁理学</b> 帰結主	ᆂᄄ	幸福・不幸に ての検討	代表さ	れる帰結を	重要視する	帰結主義につい		
	4	規範係	論理学 義務論		帰結に尽きな	い要素	を重要視す	「る義務論に	ついての検討		
	5	規範係	扁理学 徳倫理	学	有徳な者の行	う為を範	例とする領	徳倫理学につ	いての検討		
	6	生命作	扁理 健康・病	気・	医療が向き合	う健康	・病気・障	害とは何か	についての吟味		
	7	生命作	<sup>角理</sup> インフォ コンセントと自律		インフォー <i>点</i> 題の検討	ド・コ	ンセントの	)意義と自律	にまつわる諸問		
	8	生命作	論理 生殖医療		生命の誕生に	まつわ	る自己決定	こと諸問題の	検討		
	9	生命作 安楽列	<sup>角理 終末期医 E・尊厳死</sup>	療と	死の間際にお	ける自	己決定と諸	<b>皆問題の検討</b>			
	10	まとめ	b		これまでの内	容の復	習と補足、	期末レポー	トの説明		

担当 教員 本間宗一郎 接業科目 生命と健康 A 実務 経験 有: 無:	
実務   」	
対象年次・学期 1年・前期 担当 教員	
授業形態 実務 経験	
担当   教員	
実務と	
担当	
実務	
担当教員	
実務	
担当教員	
実務	
担当 教員	
実務	
担当	
実務	
担当	
<b>実務</b> 経験	
担当 教員	
担当 教員	

授業科目	生命と何	建康 B		担当教員	本間宗一郎				
対象年次・学期	1年・前	前期		必修・選択区分	必修	単位数			
授業形態				授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	・生命の	と健康で	をめぐる現代社会	の諸問題を倫理的観	  点から考える方法	を学ぶ。			
到達目標		_	∂倫理学の基本的 D考えを述べられ	な用語・考え方を理 るようになる。	解し、その理解に	基づいて生命	命医療の諸問題		
テキスト・ 参考図書等	・参考[	5:書図	斗を用意する。 対訂版 入門・医 済編、有斐閣、20	療倫理 (赤林朗編、 )11 年 )	勁草書房、2017 年	手)、はじめて	こ出会う生命倫		
	評価	方法	評価割合(%)		評価基準				
	試験		0						
評価方法・	レポー	١	70						
評価基準	小テス	<b>-</b>	0	レポート・提出物等をもとに総合的に評価する。					
	提出物		30						
	その他		0						
履修上の 留意事項	適宜参	考文献を	と紹介するので可	能な範囲で目を通し	て問題の背景を理	!解することフ	が望ましい。		
履修主題・	回		履修主題		履修内容				
履修内容	1	イント	<b>-</b> ロダクション	講義内容の概 ついての説明	既観、進め方と評値 月など	西基準の確認	、生命倫理学に		
	2	倫理	<b>学概論</b>	倫理学という	う学問がどのような	なものかにつ	いての説明		
	3	規範係	扁理学 帰結主	幸福・不幸に ての検討	こ代表される帰結を	主重要視する	帰結主義につい		
	4	規範條	論理学 義務論	帰結に尽きな	い要素を重要視す	する義務論に	ついての検討		
	5	規範係	扁理学 徳倫理	学有徳な者の行		徳倫理学につ	いての検討		
	6	生命作 障害	角理 健康・病	医療が向さる	医療が向き合う健康・病気・障害とは何かについての吟味				
	7	生命作	<sup>角理</sup> インフォ コンセントと自律		∡ド・コンセント <i>0</i>	D意義と自律	にまつわる諸問		
	8	生命作	論理 生殖医療	生命の誕生は	こまつわる自己決定	と諸問題の	検討		
	9	生命作 安楽列	<sup>角理 終末期医</sup> E・尊厳死	療と 死の間際にも	おける自己決定と請	- 皆問題の検討			
	10	まとめ	<u></u> _	これまでの内	内容の復習と補足、	期末レポー	トの説明		

授業科目     生命と健康 B       投業科目     生命と健康 B       実務 経験     有: 無:       対象年次・学期 1年・前期     担当 教員	
実務 経験 有: 無: 担当	
対象年次・学期 1年・前期 担当	
教員	
授業形態 実務 経験	
担当 教員	
実務経験	
担当教員	
実務経験	
担当教員	
実務経験	
担当 教員	
実務経験	
担当教員	
実務経験	
担当	
実務経験	
担当	
担当 教員	
実務	
実務経験	

授業科目	表現基础	礎 A		担当教員	湊	久恵			
対象年次・学期	1年・前	年・前期		必修・選択区分	沙沙	修	単位数		
授業形態				授業回数	15		時間数	30 時間	
授業目的	公務員	公務員試験の作文や実習の日誌、レポートなどを体裁良く書ける。							
到達目標	漢検 3 ;	漢検3級以上を取得する。公務員試験に合格する国語力をつける。							
テキスト・ 参考図書等			学習トレーニング プリント	3/準 2/2 級 改詞	丁第二片	饭 (日本漢字	Z能力検定協	会 編)	
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		60	定期試験、小テス	と は	2出物の評価基	進 (100 占	i満占に換質) - ・	
評価方法・	レポー		0	評価基準/	(十分	かに満足)	80 点以	.上	
評価基準	小テス	١	20	評価基準 [ 評価基準 (	評価基準 B(おおむね満足) 60~79 点 評価基準 C(努力を要する) 59 点以下				
	提出物		10		期試験・小テスト・提出物等を基に総合的に評価する。				
		きでの#	10      -   出物は楷書でT	寧に書き、鉛筆は	·漕!.1丰	.の ( B か HB )	) を使田する	こと ・私	
履修上の 留意事項	語、ス	マホの係再提出と	使用、居眠りなど ≤する。 ・漢字	ずに自己、 <u> </u>	・譲	題の未提出及	び提出に値り	しない内容のも	
履修主題・	回		履修主題		履修内容				
履修内容	1	作文 ′		現在の自然	現在の自分の作文力を知る				
	2	作文 2	2	作文のル-	作文のルール				
	3	作文3	3	高校の恩館	高校の恩師への手紙				
	4	作文 4	1	封筒の書き	封筒の書き方など手紙のルール				
	5	作文 5	5	作文のル-	作文のルールにより実作				
	6	作文 6	3	読む人を調	読む人を意識する				
	7	作文 7	7	わかりやっ	わかりやすい文章とは1				
	8	作文 8	3	わかりやっ	わかりやすい文章とは 2				
	9	作文 9	)	指示語					
	10	作文 ′	10	内容のまる	内容のまとまり				
	11	作文 ′	  1	選ぶべき	選ぶべき題材				
	12	作文	12	文章の構成	文章の構成				
	13	作文	13	本番のよ	うに書い	1てみる			
	14	レポ-	- トの書き方	実習日誌	ゥレポ-				
	15		]ード、エントリ )書き方	ーシ 書き方一つ	つで合き	らに影響			

授業科目	表現基礎 A	担当教員	湊久恵		
		実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	表現基礎	·····································		担当教員	·				
	(大)(主)			J177,A	72 200				
対象年次・学期	1年・前	前期		必修・選択区分	必修	単位数			
授業形態				授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	公務員	試験の作	下文や実習の日誌。	、レポートなどを体	裁良く書ける。				
到達目標	漢検 3 ;	級以上で	を取得する。公務	員試験に合格する国	語力をつける。				
テキスト・ 参考図書等			学習トレーニング プリント	3/準 2/2 級 改訂第	第二版 (日本漢字	₽能力検定協	会 編)		
	評価	方法	評価割合(%)		評価基準				
	試験		60	定期試験、小テスト	・ 提出物の評価基	進 (100 占	i満占に物質)		
評価方法・	レポー		0	評価基準 A (	十分に満足)	80 点以	上		
評価基準	小テス	<u> </u>	20	評価基準 B(おおむね満足) 60~79 点 評価基準 C(努力を要する) 59 点以下					
	提出物		10		ト・提出物等を基				
		きでのお		寧に書き、鉛筆は濃	いもの(BかHB)	) を使用する	こと。・私		
履修上の 留意事項	語、ス	マホの係再提出と	使用、居眠りなど とする。 ・漢字	はしないように。 検定は必ず3級を取	・課題の未提出及	び提出に値り	しない内容のも		
履修主題・			履修主題		履修内容				
履修内容	1	作文 ′	I	現在の自分の	現在の自分の作文力を知る				
	2	作文 2	2	作文のルール	作文のルール				
·	3	作文3	3	高校の恩師へ	高校の恩師への手紙				
	4	作文	1	封筒の書き方	封筒の書き方など手紙のルール				
	5	作文 5	5	作文のルール	作文のルールにより実作				
	6	作文 6	6	読む人を意識	読む人を意識する				
	7	作文 7	7	わかりやすい	わかりやすい文章とは 1				
	8	作文 8	3	わかりやすい	わかりやすい文章とは 2				
	9	作文 9	)	指示語					
	10	作文 ′	10	内容のまとま	内容のまとまり				
	11	作文 ′	11	選ぶべき題材					
	12	作文 ′	12	文章の構成					
	13	作文 ′	13	本番のように	書いてみる				
	14	レポ-	- トの書き方	実習日誌やし	ポートの意義				
	15		コード、エントリ <sup>・</sup> D書き方	ーシ 書き方一つで	で合否に影響				

授業科目	表現基礎 B	担当教員	湊久恵		
		実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	病理学	A			担当教員	曾我部 いづみ			
対象年次・学期	1年・後期		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	人体の植	構造と材	幾能において正常	から逡	逸脱する症状・	徴候を原因やメカ	コニズムも含む	めて理解する。	
到達目標			を理解し、全身諸 過程までを体系的			疾患、病態につい きる。	1て理解する。	,さらに成り立	
テキスト・ 参考図書等	・改訂	第 11	版 救急救命士	標準テ	キスト				
	評価な	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		90						
評価方法・	レポー	+	0	HD+	#EA 000/				
評価基準	小テス	۱	0		式験 90% 点(出席状況)	10%			
	提出物		0		( — ,				
	その他	<i>t- 1</i> 3 - <del>1</del> - : =	10					132.14.11	
履修上の 留意事項	く。救急 遅刻	急救命: ・中途)	書を元に解説しま 上標準テキストは 艮室 私語・携∜ する諸注意。	、予習	を行う際に活	-			
尼收入時	<u> </u>	,	履修主題			履修	 为容		
履修主題・ 履修内容	1	病理学	学概論:病理学の	概要	病理医 Q & 病理検査、病理学概論 (病理学の意義、分類、観察方法、疾病とは)について学習する。				
	2	病理症 ( 1 )	病態論:炎症・感 )	染症	炎症とは何か、原因、炎症にかかわる細胞や体液性因子、 経時的変化、全身への影響、転帰について学習する。				
	3	` '	  影論:炎症・感	染症	感染症とは何か、その成立、微生物の感染経路・様式、生体の感染防御機構、主な病原微生物の種類と疾患、炎症の 形態による分類について学習する。				
	4	病理症 ( 1 )	病態論:循環障害 )	!	害(充血、ういて理解する		血、出血)の	病因や病態につ	
	5	病理症 ( 2 )	病態論:循環障害 )	!	いて理解する 梗塞について	景(血栓症、塞栓類 る。また、局所循环 でも学習する。	環障害により	引き起こされる	
	6	病理症 進行性	病態論:退行性病 生病変	変と	縮、細胞死) や分類や疾患	)障害と適応につい と進行性病変(服 誤等を学習する。	<b>巴大、過形成</b>	、化生)の病態	
	7	病理症 癒	病態論:再生と創	傷治	の創傷治癒の おける治癒の	再生能による分類 )過程、一次治癒。 )過程についても	ヒ二次治癒の 学習する。	違い、骨組織に	
	8	病理症 病	。 理病態論:代謝障害と 。			らタンパク質・アミ 素等の代謝異常に。 「る。			
	9	病理症	理病態論:免疫(1)		胞を学ぶ。ま	自然免疫と獲得領 た、免疫の成立	こついて理解	し学習する。	
	10	病理症	<b>「理病態論:免疫(2)</b>		自己免疫疾患 る。	たらす傷害・疾患 はや膠原病、免疫を	下全症候群)	について学習す	
	11	病理症	<b>동態論:腫瘍</b>			定義、肉眼的形態 腫瘍の命名と分類、 「る。			
	12	病理症 ( 1 )	病態論:先天異常 )	·	遺伝子異常、 疾患について		) や染色体異	常により生じる	
	13	病理症 ( 2 )	病態論:先天異常 )			・、奇形の原因、 え表的な疾患につい			

14	病理病態論:老化	生理的老化と寿命、細胞寿命に関する学説を学ぶ。また、 加齢による生理的な変化、加齢に伴い増加する全身性疾 患、諸臓器の変化について学習する。
15	病理病態論:病因論&まとめ	すべての疾患には原因 (病因)がある。内因、外因のうち、特に外因について整理し学ぶ。全体を通してのまとめ。

授業科目	病理学 A	担当教員	曾我部い	づみ	歯科医師であり、大学病院におい て口腔外科医員として勤務し、当
		実務 経験	有:	無:	該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	病理学	В			担当教員	曾我部 いづみ			
対象年次・学期	1年・復	<b></b> 发期		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	人体の	構造と様	幾能において正常	からき	逸脱する症状・	徴候を原因やメカ	コニズムも含む	めて理解する。	
到達目標			を理解し、全身諸 過程までを体系的			疾患、病態につい きる。	1て理解する。	,さらに成り立	
テキスト・ 参考図書等	・改訂	第 11	版 救急救命士	標準テ	キスト				
	評価を	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		90						
評価方法・	レポー	۲	0	<u></u>	± EA :				
評価基準	小テス	٢	0		式験 90% 点(出席状況)	10%			
	提出物		0	1 1127	W ( MINING)	1070			
	その他		10						
履修上の 留意事項	く。救策 遅刻	急救命: ・中途』	書を元に解説しま 上標準テキストは 艮室 私語・携∜ する諸注意。	t、予習	を行う際に活	-			
层收土的	回		履修主題			履修	 内容		
履修主題・ 履修内容	1	病理等	学概論:病理学の	 )概要	病理医 Q & 病理検査、病理学概論(病理学の意義、分類、観察方法、疾病とは)について学習する。				
	2	病理症 ( 1 )	病態論:炎症・感 )	染症	炎症とは何か、原因、炎症にかかわる細胞や体液性因子、 経時的変化、全身への影響、転帰について学習する。				
	3	病理症 ( 2 )	病態論:炎症・感 )	染症	感染症とは何か、その成立、微生物の感染経路・様式、生体の感染防御機構、主な病原微生物の種類と疾患、炎症の形態による分類について学習する。				
	4	病理症 ( 1 )	病態論:循環障害 )	?	害(充血、ういて理解する		血、出血)の	病因や病態につ	
	5	病理症 ( 2 )	病態論:循環障害 )	-	いて理解する 梗塞について	景(血栓症、塞栓物 る。また、局所循环 でも学習する。	環障害により	引き起こされる	
	6	1	病態論:退行性病 生病変	変と	縮、細胞死) や分類や疾患	)障害と適応につい と進行性病変(原 景等を学習する。	吧大、過形成	、化生)の病態	
	7	病理症 癒	病態論:再生と創	傷治	の創傷治癒の おける治癒の	再生能による分類 )過程、一次治癒。 )過程についても <sup>9</sup>	ヒ二次治癒の 学習する。	違い、骨組織に	
	8	病理症 病	病理病態論:代謝障害 と 病		無機質、色素 ついて学習す		よって引き起	こされる疾患に	
	9	病理症	理病態論:免疫(1)		胞を学ぶ。ま	自然免疫と獲得第 た、免疫の成立	こついて理解	し学習する。	
	10	病理症	<b>病理病態論:免疫(2)</b>		免疫反応がもたらす傷害・疾患(アレルギー性組織障害 自己免疫疾患や膠原病、免疫不全症候群)について学習 る。			について学習す	
	11	病理症	<b>病態論:腫瘍</b>		瘍の特徴、腫 式等を学習す		異形成、悪	性腫瘍の進展形	
	12	病理症 ( 1 )	病態論:先天異常 )	; 	遺伝子異常、 疾患について		) や染色体異	常により生じる	
	13	病理症(2)	病態論:先天異常 )		奇形とは・・・、奇形の原因、成立時期、催奇形因子、 形の種類と代表的な疾患について学習する。				

14	病理病態論:老化	生理的老化と寿命、細胞寿命に関する学説を学ぶ。また、 加齢による生理的な変化、加齢に伴い増加する全身性疾 患、諸臓器の変化について学習する。
15	病理病態論:病因論&まとめ	すべての疾患には原因 (病因)がある。内因、外因のうち、特に外因について整理し学ぶ。全体を通してのまとめ。

授業科目	病理学 B	担当教員	曾我部い	づみ	歯科医師であり、大学病院におい て口腔外科医員として勤務し、当
		実務経験	有:	無:	該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	薬理学	A			担当教員	山崎	晃憲				
対象年次・学期	1年・復	<b></b> 後期		必值	冬・選択区分	必修		単位数			
授業形態					授業回数	10 回		時間数	20 時間		
授業目的	救急医療	寮に必要	要な薬物の知識を	習得す	る。						
到達目標			薬物の体内動態 ・乳酸リンゲル液					•			
テキスト・ 参考図書等	・クイ	汀 第 11 版 救急救命士標準テキスト イックマスター薬理学(購入不要) 解薬理学(購入不要)									
	評価が	方法	評価割合(%)				評価基準				
	試験		70								
評価方法・	レポー	<b>-</b>	0								
評価基準	小テス	<u> </u>		定期記	試験・小テスト	等を基	に総合的に	評価する。			
	提出物		0								
	その他		0		D	.+ _	1-31/				
履修上の 留意事項			いに講義形式で行 合的に判断する。				授業ことに	.行つ間里なん	ハテスト、参加		
履修主題・			履修主題		履修内容						
履修内容	1	薬理学	色の基礎		薬理学の概要、薬物と法令、薬物と作用、薬物受容体						
	2	薬物重	力態		薬物の吸収・分布・代謝・排泄						
	3	薬理/ 因	F用に影響を与え	る要	薬理作用に影	響を与	える要因				
	4	自律礼	<b>神経系</b>		交感神経作用	薬、副	交感神経	F用薬			
	5	中枢神	神経系		向精神薬						
	6	物質化			内分泌系、糖	代謝と	:糖尿病治療	<b>寮薬、輸液製</b>	剤		
	7	心臓血	1管系		高血圧治療薬	、狭心	症治療薬、	抗凝固薬			
	8	日常的	りによく使われる	薬	抗炎症薬、抗	アレル	/ギー薬、原	感染症治療薬			
	9	まとめ	<b>)</b>		問題演習						
	10	まとめ	<u> </u>		問題演習						

授業科目	薬理学 A	担当教員	山崎晃憲		薬剤師として医療に従事し、当該
12 * 17 C	未往了八	実務 経験	有:	無:	科目を担当する。
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	薬理学	В			担当教員	山崎 晃憲					
対象年次・学期	1年・復	<b></b>		必值	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間			
授業目的	救急医療	寮に必要	要な薬物の知識を	習得す	る。						
到達目標			薬物の体内動態 ・乳酸リンゲル液			ついて説明できる 用を説明できる。	0				
テキスト・ 参考図書等	・クイ	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・クイックマスター薬理学(購入不要) ・図解薬理学(購入不要)									
	評価な	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		70								
評価方法・	レポー		0		E期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。						
評価基準	小テス	١		定期語	式験・小テスト	等を基に総合的に	:評価する。				
	提出物		0								
履修上の 留意事項	プリン					績、各授業ごとに 説明。	行う簡単な!	トテスト、参加			
履修主題・	回		履修主題			履修四	内容				
履修内容	1	薬理等	グの基礎		薬理学の概要、薬物と法令、薬物と作用、薬物受容体						
	2	薬物重	加態		薬物の吸収・分布・代謝・排泄						
	3	薬理(	F用に影響を与え	る要	薬理作用に影	/響を与える要因					
	4	自律礼	神経系		交感神経作用	]薬、副交感神経作	 ■用薬				
	5	中枢剂	神経系		向精神薬						
	6	物質化	<b></b>		内分泌系、糖	代謝と糖尿病治療	聚薬、輸液製	剤			
	7	心臓血	<b>□</b> 管系		高血圧治療薬、狭心症治療薬、抗凝固薬						
	8	日常的	りによく使われる	薬	抗炎症薬、抗アレルギー薬、感染症治療薬						
	9	まとめ	<b>)</b>		問題演習						
	10	まとめ	<b>b</b>		問題演習						

授業科目	薬理学 B	担当 教員	山崎晃憲		薬剤師として医療に従事し、当該
1又来11口	来4子 D	実務 経験	有:	無:	科目を担当する。
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理科総1	合 A			担当教員	輕部 諭	輕部 諭				
対象年次・学期	1年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間			
授業目的	医療の		よる生理学・生物	-  学を理	<b>里解する。身体</b>	の概要・細胞・遺	伝・生体防行	卸の基本的な事			
到達目標	生理・領	生化学で	で使う化学式、化	学反応	を活用できる	。細胞、人体の基	本的機能を記	说明できる。			
テキスト・ 参考図書等	・サイ	・サイエンスビュー生物総合資料 4 訂版									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		60								
評価方法・	レポー	٢	0								
評価基準	小テス	٢	20	定期記	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。						
	提出物		0								
	その他										
履修上の 留意事項	すめて	ハく。き	学習に関連した演	習問題	夏を授業の中で	を板書やプリント 扱い、小テストを くる。医療基礎と	実施。これが	から先、生理			
履修主題・			履修主題			履修2	内容				
履修内容	1	化学			原子構造、原子量、分子量、物質量、溶液の濃度						
	2	化学			化学結合・化 数,加水分解	ど学反応、酸・塩基 詳	基、酸化還元	、水素イオン指			
	3	生物等	Ź		糖、蛋白質、脂肪、ATP						
	4	生物等	Ž		細胞・DNA・	タンパク質					
	5	生物等	<u></u>		神経系						
	6	生物等	<u> </u>		循環系、肝臓・腎臓						
	7	生物等	<u> </u>		呼吸器、消化器						
	8	生物等	<u></u>		ホルモンによる調整、内部環境と恒常性						
	9	生物等	<u></u>		生体防御						
	10	物理等	学(力と仕事)		物体の変形・ エネルギー事	剪断、位置エネ川 基故	/ギー・運動	エネルギー、高			

授業科目	理科総合 A	担当教員	輕部諭		
		実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
					İ

授業科目	理科総合	含 B			担当教員	3当教員 輕部 諭					
対象年次・学期	1年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間			
授業目的	医療の基 柄を理解		なる生理学・生物	- 学を理	<b>里解する。身体</b>	の概要・細胞・遺	伝・生体防御	卸の基本的な事			
到達目標	生理・生	生化学で	で使う化学式、化	学反応	を活用できる	。細胞、人体の基	本的機能を記	说明できる。			
テキスト・ 参考図書等	・サイニ	・サイエンスビュー生物総合資料 4 訂版									
	評価方	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		60								
評価方法・	レポート	1	0								
評価基準	小テスト	<b>,</b>	20	定期記	E期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。 						
	提出物										
	その他	1,224 1	20	<del></del>	· +	+1/=n==115.1	~~ <del>-</del>	1% - <del>1</del>			
履修上の 留意事項	すめてい	いく。当	学習に関連した演	習問題	夏を授業の中で	を板書やプリント 扱い、小テストを くる。医療基礎と	実施。これが	から先、生理			
履修主題・			履修主題		履修内容						
履修内容	1	化学			原子構造、原子量、分子量、物質量、溶液の濃度						
	2	化学			化学結合・化 数,加水分解	ど学反応、酸・塩基 詳	基、酸化還元	、水素イオン指			
	3	生物学	<u> </u>		糖、蛋白質、脂肪、ATP						
	4	生物学	<u> </u>		細胞・DNA・タンパク質						
	5	生物学	<u>ź</u>		神経系						
	6	生物学	<u>ź</u>		循環系、肝臓・腎臓						
	7	生物学	<u>ź</u>		呼吸器、消化器						
	8	生物学	<u>ź</u>		ホルモンによる調整、内部環境と恒常性						
	9	生物学	<u>ź</u>		生体防御						
	10	物理学	芝(力と仕事)		物体の変形・ エネルギー事	剪断、位置エネ川 詳故	/ギー・運動	エネルギー、高			

授業科目	理科総合 B	担当教員	輕部諭		
1文米17口	ᆇᆟᆟᆐᄔᄆ	実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床検証	査・放射	寸線 A		担当教員	星 直樹				
対象年次・学期	1年・復	<b></b> 後期		必值	き・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的		また、	Oいての基礎知識 代表的な疾病と を学ぶ。							
到達目標			検査の内容や検査へ への影響について							
テキスト・ 参考図書等		第 11 ント資料	版 救急救命士樹 斗	悪準テ	キスト					
	評価方法 評価割合(%)					評価基準				
	試験		100							
評価方法・ 評価基準	レポー				武験 100%	700/				
<b>TIM</b> <del>**</del>	サイス 提出物	<u> </u>	0		ā床検査分野 奴射線分野 30					
	その他		0							
履修上の 留意事項	救急救行ること。		└───────────────────────── ≢テキストの検査、	放射	対線の知識の項	目に沿って進めて	いく。予習、	復習を心がけ		
履修主題・	回		履修主題			履修	<b>内容</b>			
履修内容	1	臨床植			臨床検査の免	免疫学的検査(免疫	ゥ とアレルギ	- ) を学ぶ。		
	2	臨床核	食査		臨床検査の免疫学的検査(免疫と輸血)を学ぶ。					
	3	臨床核	全查		臨床検査の血液学的検査(白血球の分類)を学ぶ。					
	4	臨床核	食査		臨床検査の血液学的検査(凝固と線溶)を学ぶ。					
	5	臨床核	食査		臨床検査の生	:化学的検査(肝標	機能と腎機能	検査)を学ぶ。		
	6	臨床村	食査		臨床検査の生化学的検査(糖と脂質、ホルモン)を学ぶ。					
	7	臨床植	食査		臨床検査の生	=理学的検査(心電	『図検査)を	学ぶ。		
	8	臨床村	食査		臨床検査の生   ぶ。	Ξ理学的検査(その	の他の生理学	的検査)を学		
	9	臨床植	<b>全</b>		臨床検査の微	<b>效生物学的検査(</b> 約	田菌の種類と	特徴)を学ぶ。		
	10	臨床植	食査		臨床検査の微	<b>效生物学的検査(</b> 約	田菌と疾患)	を学ぶ。		
	11	放射約	泉 (杉本)		X 線撮影 攝	影の原理・骨折症	<b>È例を学ぶ。</b>			
	12	放射線 (杉本)			X線撮影 胸部・腹部(骨以外)を学ぶ。					
	13	放射約	泉 (杉本)		X線CT CT・RI・被ばくを学ぶ。					
	14	放射約	泉 (杉本)		X線透視 心臓カテーテル検査、放射線計測を学ぶ。					
	15	放射約	泉 (杉本)		NBC災害	CBRNE 災害、原	子力発電を	学ぶ。		

授業科目	臨床検査・放射線 A	担当教員	杉本健		臨床放射線技師として病院に勤
IXXIII	WILLY TO THE TANK IN	実務 経験	有:	無:	務し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当 数員			
		実務			
		経験			

授業科目	臨床検証	査・放射	寸線 B	担	当教員	星直樹				
対象年次・学期	1年・復	<b></b> 後期		必修	・選択区分	必修	単位数			
授業形態				授	業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的		また、	代表的な疾病と			検査データを基に 知識を習得する。				
到達目標			検査の内容や検査( への影響について)							
テキスト・ 参考図書等		第 11 ント資料	版 救急救命士標 斗	票準テキ	スト					
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100							
評価方法・	レポー				食 100%					
評価基準	小テス	۲	0		末検査分野 対線分野 30					
	提出物		0	322						
 履修上の				th 自士化	自の知識の頂	 目に沿って進めて	11/ 233	クタス たいがけ		
留意事項	ること。		ドノイストの快車、	、从又为当构	KUノZUi畝Uノょ只	日に沿りて進めて	いて。」が白、	接自を心がり		
履修主題・	回		履修主題			履修 [	內容			
履修内容	1	臨床核	查	B	臨床検査の免疫学的検査(免疫とアレルギー)を学ぶ。					
	2	臨床核	<b>食</b> 查	6	臨床検査の免疫学的検査(免疫と輸血)を学ぶ。					
	3	臨床核	查	В	臨床検査の血液学的検査(白血球の分類)を学ぶ。					
	4	臨床核	食査	B	臨床検査の血液学的検査(凝固と線溶)を学ぶ。					
	5	臨床核	全查	В	臨床検査の生	∈化学的検査(肝機	能と腎機能	検査)を学ぶ。		
	6	臨床植	<u></u>	В	臨床検査の生	∈化学的検査(糖と	脂質、ホル	モン)を学ぶ。		
	7	臨床核	全查	В	臨床検査の生	三理学的検査(心電	図検査)を	学ぶ。		
	8	臨床村	查		臨床検査の生 ぶ。	三理学的検査(その	他の生理学	的検査)を学		
	9	臨床核	<b>全</b>			效生物学的検査(糾	田菌の種類と	特徴)を学ぶ。		
	10	臨床核	<u></u> 全查	6	塩床検査の微	效生物学的検査(糾	昭園と疾患)	を学ぶ。		
	11	放射約	泉 (杉本)	)	X 線撮影 揖	影の原理・骨折症	例を学ぶ。			
	12	放射線 (杉本)			X 線撮影 施	部・腹部疾患(骨	以外)を学	<i>S</i> î.,		
	13	放射約	泉 (杉本)	>	X 線 CT CT・RI・被ばくを学ぶ。					
	14	放射約	泉 (杉本)	)	X 線透視 心臓カテーテル検査、放射線計測を学ぶ。					
	15	放射約	泉 (杉本)	١	NBC災害	CBRNE 災害、原	子力発電を等	ざぶ。		

授業科目	臨床検査・放射線 B	担当 教員	杉本健		臨床放射線技師として病院に勤
JX**17 LI		実務 経験	有:	無:	務し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		 担当 教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		<b>於土河</b> 火			

授業科目	医療機器	器管理,	4		担当教員	三上 剛人				
 対象年次・学期	1 年・後	1 年・後期			多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	救急患者	救急患者を取り巻く医療機器の必要性、重要性を理解する。								
到達目標	関連する	関連する医療機器の目的と取り扱い方法を説明できる。								
テキスト・ 参考図書等	・改訂	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト								
	評価プ	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80%							
評価方法・	レポー	٢	0			筆記試験 80%				
評価基準	小テス	٢	0		ノート評価 20 筐のノートのみ	)‰ .持ち込み可能です	- . コピーの!	 貼り付けなどは		
	提出物		20%	認めて	ていません。					
	その他		0							
履修上の 留意事項	たくさんひとつ	んの医療 ですが、	療機器があります	。機柄	を使うことは	扱い、原理を学ん 、とても便利で正 いたる危険なもの	確に医療を抗	是供する方法の		
履修主題・	回		履修主題			履修内容				
履修内容	1	工学士			医療用電源と一般電源の違いや救急医療の医療機器に必要 な知識全般を開設します。					
	2		スオキシメーター ・人工呼吸器 1	・除	全3回を使って、上記の調べ学習、発表を行います。					
	3	細動·	スオキシメーター ・人工呼吸器 2		グループ演習					
	4		スオキシメーター ・人工呼吸器 3			<b>『・プレゼンテー</b> 》				
	5	心電図・除細動			す。	図、モニター心電				
	6	心電図・除細動			12 誘導心電 す。	導心電図、モニター心電図、除細動について学びま				
	7	輸液ポンプ・シリンジポン プ・血糖測定器			原理、構造、	適応、注意点等、	演習を交え	ます。		
	8		医療で使用する医 ( 三上 )	療機	病院と在宅の違い。在宅機器操作時の注意点など					
	9	超音》	皮検査の理解		超音波エコーについて知識を獲得します。					
	10	まとめ	り (三上)		これまでの讃	<b>講のまとめと総合</b>	<b>計問題演習</b>			
	11									

			Г		
授業科目	医療機器管理 A	担当教員	本吉竜浩		臨床工学技士として医療機器の   安全管理業務に従事しており、当
1文米17日	公,尽,队。由 上 八	実務 経験	有:	無:	該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当			
		実務経験			
			l		

授業科目	医療機器	器管理(	3		担当教員	三上 剛人				
 対象年次・学期	1 任,結	1 年・後期					単位数			
刘家牛人。于朔	1 4 18	1 午 1 投知			多一选]八位刀	光順	+ 世奴			
授業形態					授業回数	10 回	時間数	20 時間		
授業目的	救急患	救急患者を取り巻く医療機器の必要性、重要性を理解する。								
到達目標	関連する	関連する医療機器の目的と取り扱い方法を説明できる。								
テキスト・ 参考図書等	・改訂	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト								
	評価方	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80%							
評価方法・	レポー	١-	0			筆記試験 80%				
評価基準	小テス	٢	0		ノート評価 20 色のノートのみ	)% 持ち込み可能です	- -。コピーの!	貼り付けなどは		
	提出物		20%		ていません。					
	その他		0							
履修上の 留意事項	たくさんひとつ	んの医療 ですが、	療機器があります	。機柄	を使うことは	扱い、原理を学ん 、とても便利で正 いたる危険なもの	確に医療を抗	是供する方法の		
履修主題・			履修主題			履修内容				
履修内容	1	工学士			医療用電源と一般電源の違いや救急医療の医療機器に必要 な知識全般を開設します。					
	2	細動·	スオキシメーター ・人工呼吸器 1		全3回を使って、上記の調べ学習、発表を行います。					
	3	細動·	スオキシメーター ・人工呼吸器 2		グループ演習					
	4		スオキシメーター ・人工呼吸器 3			・プレゼンテーシ				
	5	心電図・除細動			す。	<b>導心電図、モニター心電図、除細動について学びま</b>				
	6	心電図・除細動			12 誘導心電    す。	図、モニター心電	凶、除細動に	こついて字びま		
	7	輸液ポンプ・シリンジポンプ・血糖測定器			原理、構造、	適応、注意点等、	演習を交え	ます。		
	8	器 (	医療で使用する医 ( 三上 )	療機	病院と在宅の	)違い。在宅機器搏	操作時の注意	点など		
	9	超音》	皮検査の理解		超音波エコーについて知識を獲得します。					
	10	まとぬ	り (三上)		これまでの讃	<b>講のまとめと総合</b>	問題演習			
	11									

					<u></u>
授業科目	医療機器管理 B	担当 教員	本吉竜浩		臨床工学技士として医療機器の   安全管理業務に従事しており、当
JANTH		実務 経験	有:	無:	該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

	T								
授業科目	応急処計	置 A			担当教員	阿部 鯛一			
対象年次・学期	通年			必作	冬・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	68 回	時間数	135 時間	
授業目的		傷病者を医師に引き継ぐまでの間に、傷病者の症状や病態に最も適切な対応を行うため、基礎技術の習得・各種資器材の特性を理解し状況に合った応急処置技術の習得を行う。							
到達目標	   資器材の特性を理解し、正しい使用方法で適切な処置ができる。 								
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・救急資器材管理マニュアル ・救急技術マニュアル								
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		80						
評価方法・	レポー	+	0						
評価基準	小テス	۲	20	定期記	試験・効果測定	等を基に総合的に	評価する。		
	提出物		0						
	その他	異材につ	0 DINTの機能 取	- お 型	を記事項かどの	 説明後、実技を行	・っていく	主翌問始前に各	
履修上の 留意事項	テキス めるこ	トの該当 と。止む 人数制の	当ページで予習を ひを得ず欠席した D実習形態に関し	するこ 場合σ	こと。授業中、 )フォローにつ	が明な点や疑問点 不明な点や疑問点 いては自分から担 設けているので、	は積極的に 当教員等に	質問し理解を深 動きかけるこ	
履修主題・			履修主題		履修内容				
履修内容	1	リバー	 -レスキュー		ニセコ尻別川	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験			
	2	リバー			ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験				
	3	リバ-	-レスキュー		ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験				
	4	リバー	-レスキュー		ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験				
	5	リバー	-レスキュー		ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験				
	6	リバ-	-レスキュー		ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験				
	7	リバ-	-レスキュー		ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験				
	8	リバ-	-レスキュー						
	9	オリコ	ロンテーション		実習開始についてのオリエンテーション				
	10	救急班	 見場活動の基本		救急要請から医療機関収容までの救急活動の流れ				
	11	救急素	女命士が行う処置		除細動(半自 法	<b>]動、全自動、自動</b>	対式心マッサ	ージ器)使用方	
	12	救急救	対命士が行う処置			<b>]動、全自動、自動</b>	ガ式心マッサ	ージ器)使用方	
	13	救急救	対命士が行う処置			田動器を用いた心服	市蘇生法(BL	S)	
	14	救急救	数命士が行う処置		半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法(BLS)				
	15	救急救	数命士が行う処置		半自動式除細	田動器を用いた心脈	  市蘇生法(BL	_S)	
	16	救急救	数命士が行う処置 数命士が行う処置		半自動式除組	 晒動器を用いた心脈	 <sup>讳蘇生法(BL</sup>	_S )	
	17	救急救	× 放射		半自動式除組	 晒動器を用いた心脈	 <sup>讳蘇生法(BL</sup>	_S )	
	18		女命士が行う処置			動器を用いた心脈			
	19	確認記				<u></u> 		-	
	20	確認記				 ・動器を用いた心服			
	21		対命士が行う処置		異物除去方法(指拭法、背部巧打法、胸腹部突き上げ法 等)				

22	救急救命士が行う処置	異物除去方法(喉頭展開、マギール鉗子、喉頭鏡を使用し た異物除去)
23	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
24	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
25	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
26	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
27	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
28	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
29	確認試験	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
30	確認試験	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
31	救急救命士が行う処置	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
32	救急救命士が行う処置	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
33	救急救命士が行う処置	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
34	救急救命士が行う処置	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
35	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
36	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
37	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活   動)
38	救急救命士が行う処置29	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活   動)
39	救急救命士が行う処置③	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活動)
40	救急救命士が行う処置⑩	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活動)
41	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活動)
42	救急救命士が行う処置⑱	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活   動)
43	確認試験	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活動)
44	確認試験	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活  動)
45	救急救命士が行う処置②	気管挿管(個人訓練)
46	救急救命士が行う処置⑩	気管挿管 (個人訓練)
47	救急救命士が行う処置③	気管挿管 (個人訓練)
48	救急救命士が行う処置②	気管挿管(個人訓練)
49	救急救命士が行う処置33	気管挿管と心肺蘇生法(隊活動)
50	救急救命士が行う処置39	気管挿管と心肺蘇生法(隊活動)
51	救急救命士が行う処置③	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
52	救急救命士が行う処置36	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
53	救急救命士が行う処置③	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
54	救急救命士が行う処置38	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
55	救急救命士が行う処置③	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
56	救急救命士が行う処置38	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
57	確認試験	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
58	確認試験	気管挿管と心肺蘇生法(隊活動)
59	総合シミュレーション	想定訓練
60	総合シミュレーション	想定訓練

61	総合シミュレーション	想定訓練
62	総合シミュレーション	想定訓練
63	総合シミュレーション	想定訓練
64	総合シミュレーション	想定訓練
65	消防署見学	消防業務の理解と体験
66	消防署見学	消防業務の理解と体験
67	消火栓除雪	消防業務の一つである消火栓除雪を実施
68	消火栓除雪	消防業務の一つである消火栓除雪を実施

+立 <b>光</b> む/□	<b>广</b> 4. 加 罕 _ A	担当教員	池田	悠輔	救急救命士として、当該科目の教
授業科目	応急処置 A	実務 経験	有:	無:	育を行う
対象年次・学期	通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

	1								
授業科目	応急処計	置 B			担当教員	阿部 鯛—			
対象年次・学期	通年		业		冬・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	68 回	時間数	135 時間	
授業目的						や病態に最も適り 応急処置技術の習		うため、基礎技	
到達目標	   資器材の特性を理解し、正しい使用方法で適切な処置ができる。 								
テキスト・ 参考図書等	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト ・救急資器材管理マニュアル ・救急技術マニュアル								
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		80						
評価方法・	レポー	-	0						
評価基準	小テス	١	20	定期記	試験・効果測定	等を基に総合的に	に評価する。		
	提出物		0						
	その他	器材につ	0     0   0   0   0   0   0   0   0	7扔 型	*忌事頃かどの	説明後 宝坊を行	<sub>もっていく</sub> 5	主習開始前に冬	
履修上の 留意事項	テキス めるこ。 と。少	資器材についての機能、取扱、教ストの該当ページで予習をする。 ストの該当ページで予習をする。 こと。止むを得ず欠席した場合の 少人数制の実習形態に関してはず目を通すこと。			こと。授業中、 )フォローにつ	不明な点や疑問点 いては自分から担	は積極的に 当教員等に	質問し理解を深 動きかけるこ	
履修主題・	回		履修主題		履修内容				
履修内容	1	リバ-	-レスキュー		ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験				
	2	リバ-	-レスキュー		ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験				
	3	リバ-	-レスキュー		ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験				
	4	リバ-	-レスキュー		ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験				
	5	リバ-	-レスキュー		ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験				
	6	リバ-	-レスキュー		ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験				
	7	リバ-	-レスキュー		ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験				
	8	リバ-	-レスキュー		ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験				
	9	オリコ	Eンテーション		実習開始についてのオリエンテーション				
	10	救急班	見場活動の基本		救急要請から	医療機関収容ま	での救急活動	 の流れ	
	11	救急救	数命士が行う処置	<u>!</u>	除細動(半自 法	<b> 動、全自動、自</b>	動式心マッサ	ージ器)使用方	
	12	救急救	数命士が行う処置 対命士が行う処置	<u>.</u>		<b> 動、全自動、自</b>	動式心マッサ	ージ器)使用方	
	13	救急救	 対命士が行う処置	!		田動器を用いた心臓	市蘇生法(Bl	S)	
	14	救急求	急救命士が行う処置		半自動式除紙	田動器を用いた心臓	 市蘇生法(Bl	_S)	
	15	救急救	急救命士が行う処置		半自動式除紙	田動器を用いた心臓	 肺蘇生法(Bl	_S)	
	16	救急求	対急救命士が行う処置			田動器を用いた心臓			
	17	救急求	救急救命士が行う処置		半自動式除紙	田動器を用いた心臓	 肺蘇生法(BL	_S)	
	18		数命士が行う処置		半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法(BLS) 半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法(BLS)				
	19	確認記				田動器を用いた心			
	20	確認記				田動器を用いた心			
	21		数命士が行う処置	! =		法(指拭法、背部)			

22	救急救命士が行う処置	異物除去方法(喉頭展開、マギール鉗子、喉頭鏡を使用し た異物除去)
23	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
24	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
25	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
26	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
27	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
28	救急救命士が行う処置	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
29	確認試験	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
30	確認試験	異物除去を伴う心肺蘇生法(隊活動)
31	救急救命士が行う処置	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
32	救急救命士が行う処置	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
33	救急救命士が行う処置	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
34	救急救命士が行う処置	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
35	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
36	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイスを用いた気道確保(個人訓練)
37	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活   動)
38	救急救命士が行う処置29	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活   動)
39	救急救命士が行う処置③	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活動)
40	救急救命士が行う処置⑩	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活動)
41	救急救命士が行う処置②	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活動)
42	救急救命士が行う処置⑱	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活   動)
43	確認試験	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活動)
44	確認試験	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法(隊活  動)
45	救急救命士が行う処置②	気管挿管(個人訓練)
46	救急救命士が行う処置⑩	気管挿管 (個人訓練)
47	救急救命士が行う処置③	気管挿管(個人訓練)
48	救急救命士が行う処置②	気管挿管(個人訓練)
49	救急救命士が行う処置33	気管挿管と心肺蘇生法(隊活動)
50	救急救命士が行う処置39	気管挿管と心肺蘇生法(隊活動)
51	救急救命士が行う処置③	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
52	救急救命士が行う処置36	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
53	救急救命士が行う処置③	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
54	救急救命士が行う処置38	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
55	救急救命士が行う処置③	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
56	救急救命士が行う処置38	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
57	確認試験	気管挿管と心肺蘇生法 (隊活動)
58	確認試験	気管挿管と心肺蘇生法(隊活動)
59	総合シミュレーション	想定訓練
60	総合シミュレーション	想定訓練

61	総合シミュレーション	想定訓練
62	総合シミュレーション	想定訓練
63	総合シミュレーション	想定訓練
64	総合シミュレーション	想定訓練
65	消防署見学	消防業務の理解と体験
66	消防署見学	消防業務の理解と体験
67	消火栓除雪	消防業務の一つである消火栓除雪を実施
68	消火栓除雪	消防業務の一つである消火栓除雪を実施

T의 기자 4시 ID		担当 教員	阿部鯛—		看護師として救急医療に従事し、
授業科目	応急処置 B	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う
対象年次・学期	通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当			
		実務経験			
			l		

授業科目	外傷総詞	論 A			担当教員	阿部 鯛一	阿部 鯛—			
対象年次・学期	1年・後	 <u></u>		必作	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間		
授業目的	外傷病障	院前救部	<b>美についての概要</b>	、観察	そ、処置につい	て学ぶ。				
到達目標	外傷病障 動を説明			救急活	<b></b> 動、外傷病態	について説明がで	きる。	災害時の現場活		
テキスト・ 参考図書等	・改訂	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト								
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー	F 0								
評価基準	小テスト 20			定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。						
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項	講義形式	式とする	る。前半と後半で	学習至	達度確認のた	め、まとめを行う	•			
履修主題・			履修主題		履修内容					
履修内容	1	外傷(	[損傷]の定義		外傷の疫学					
	2	外傷(	[損傷]の分類		鈍的外傷・鋭的外傷・創傷の分類					
	3	受傷機 徴	<b>転からみた外傷</b> の	の特	傷病者の状況と受傷機転の評価					
	4	外傷に	よる障害の起こ	り方	気道閉塞・呼吸障害・循環障害・中枢神経障害					
	5	外傷に	よる死因		外傷死による3つのピークと死因					
	6	現場ト	・リアージ		重症度・緊急	度の判断・現場ト	- リアージ			
	7	前半σ	まとめ		理解度確認					
	8	頭部夕 髄)攅	ト傷・顔面・頸椎 員傷	(頸	外傷の種類・	病態・観察のポイ	′ント・処置			
	9	胸部夕	ト傷・腹部外傷		外傷の種類・	病態・観察のポイ	ント・処置			
	10	骨盤骨	計・四肢外傷		外傷の種類・	病態・観察のポイ	′ント・処置			
	11	特殊症			小児外傷・高		卜傷			
	12	災害時			トリアージ⊠		 法(トリア	ージ)		
	13	災害時		1	トリアージ区分・トリアージ方法(トリアージ)					
	14	医療機	    関との連携		ドクターカー・ドクターへリ・DMAT					
	15	14. N. a	 )まとめ		理解度確認					

授業科目	外傷総論 A	担当 教員	阿部鯛—		     救急救命士として救急業務に従
5文未行日	가기物系 대표 시	実務 経験	有:	無:	事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	外傷総詞	論 B			担当教員	阿部 鯛一					
対象年次・学期	1年・後	<b></b> 後期		必作	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的	外傷病障	外傷病院前救護についての概要、観察、処置について学ぶ。									
到達目標	外傷病障 動を説			救急活	<b>5動、外傷病態</b>	について説明がで	きる。	災害時の現場活			
テキスト・ 参考図書等	・改訂	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト									
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準					
_	試験		80								
評価方法・	レポー	-	0								
評価基準	小テス	<b>-</b>		定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。 							
-	提出物		0								
屋炊しの	その他		0								
履修上の 留意事項	講義形式	式とする	る。前半と後半で	学習到	達度確認のた	め、まとめを行う	•				
履修主題・	回		履修主題		履修内容						
履修内容	1	外傷(	[損傷]の定義		外傷の疫学						
	2	外傷(	[損傷] の分類		鈍的外傷・鋭的外傷・創傷の分類						
	3	受傷機 徴	<b>鯵転からみた外傷</b>	の特	傷病者の状況と受傷機転の評価						
	4	外傷に	よる障害の起こ	り方	気道閉塞・呼吸障害・循環障害・中枢神経障害						
	5	外傷に	よる死因		外傷死による	3 つのピークとタ	 E因				
	6	現場ト	・リアージ		重症度・緊急	度の判断・現場ト	- リアージ				
	7	前半σ	まとめ		理解度確認						
	8	頭部外髓)損	ト傷・顔面・頸椎 員傷	(頸	外傷の種類・病態・観察のポイント・処置						
	9		ト傷・腹部外傷		外傷の種類・	病態・観察のポイ	ント・処置				
	10	骨盤骨	針・四肢外傷		外傷の種類・	病態・観察のポイ	′ント・処置				
	11	特殊症			小児外傷・高		卜傷				
	12	災害時		)	トリアージ⊠		 法(トリア	ージ)			
	13	災害時	持トリアージ(2)	)	トリアージ区分・トリアージ方法(トリアージ)						
	14	医療機	 との連携		ドクターカー・ドクターへリ・DMAT						
		医療機関との連携			理解度確認						

授業科目	外傷総論 B	担当 教員	阿部鯛—		救急救命士として救急業務に従
5文未行日	가게 제한 기계 기계 기계 기계 기계 기계 기계 기계 기계 기계 기계 기계 기계	実務 経験	有:	無:	事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	基礎演	習 A			担当教員	阿部 鯛一			
対象年次・学期	1年・前	前期		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	45 回	時間数	90 時間	
授業目的	救急救症 処置を			集団行	<b>丁動を体験し習</b>	得する。各種搬送	<u>'</u> 法・創傷処」	置等の基本的な	
到達目標	る。					体位管理・保温・ を通じてチームと	-		
テキスト・ 参考図書等	・救急	<ul><li>・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト</li><li>・救急資器材管理マニュアル</li><li>・救急技術マニュアル</li><li>・その他</li></ul>							
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		80						
評価方法・	レポー		0						
評価基準	3.7 1 20 /				<b>試験・項目ごと</b>	:に行う効果測定等	<b>等を基に総合</b>	的に評価する。	
	提出物 0								
履修上の 留意事項								動と、規律ある	
	回		履修主題			履修	 内容		
履修工題。	1	オリエンテーション (1			はじめに(基 て)	基礎演習全般の説明	月・頭髪、爪	、服装につい	
	2	オリコ	エンテーション (	2)	号令要領、番号のかけ方(人員確認) 整列の仕方(基本 の姿勢、整列休めの姿勢)				
	3	訓練ネ	L式 (1)			<b>黄隊の集合要領、</b> 村	黄隊の整頓、	横隊の右(左)	
	4	訓練ネ	L式(2)		敬礼動作(挙手注目の敬礼、最敬礼、15 度の敬礼、かし ら中(右、左))				
	5	訓練ネ	L式(3)		右(左)向け、半ば右(左)向け、後ろ向き(まわれ右)				
	6	訓練ネ	L式(4)		かけ足行進・停止、職員室入退室要領				
	7	訓練ネ	L式(5)		通常点検要領				
	8	訓練ネ	L式(6)		通常点検要領				
	9	0-5	プ結索 (1)		│ 基本結索(本 │ 二重もやい約	x結び、巻き結び、 もび)	ひとえ結び	、もやい結び、	
	10	<b>D</b> -5	プ結索 (2)			結び、巻き結び、	ひとえ結び	、もやい結び、	
	11		プ結索 (3)		器具結索(加	ボンベ、かけや、作	也)		
	12		プ結索(4)		器具結索(加	「ンベ、かけや、何	也)		
	13	確認語	式験		訓練礼式・口	]ープ結索			
	14	確認記	式験		訓練礼式・口	]ープ結索			
	15	創傷の	D処置(1)		三角巾を使用した固定・被覆・止血処置				
	16	創傷の	D処置 (2)		骨折の処置 ( 定	〔副木固定 〕 バキ	ュームスプリ	リントによる固	
	17	各種的	般送法(1)		メインストレッチャー、サブストレッチャー				
	18	各種的	般送法 (2)		スクープストレッチャー、布担架				
	19	傷病者	香の管理(1)		体位の管理(仰臥位、坐位、腹臥位、側臥位、ショック体 位)				
	20	傷病者	首の管理(2)		頸椎カラー固定、全身固定				

21	各種搬送法(1)	徒手搬送(支持搬送・抱き上げ搬送)
22	各種搬送法 (2)	応急担架(毛布・衣服・棒) 傾斜のある場所での搬送
23	確認試験	各種創傷の処置、搬送法、体位管理の確認
24	確認試験	各種創傷の処置、搬送法、体位管理の確認
25	救急隊現場活動(1)	傷病者接触までの確認事項(情報共有、環境観察、傷病者 の確認)
26	救急隊現場活動(2)	問診と聴取(OPQRST、SAMPLER を使用した問診)
27	救急隊現場活動(3)	バイタルサインの測定(初期評価、資機材を用いたバイタ ルサイン測定)
28	救急隊現場活動(4)	バイタルサインの測定(初期評価、資機材を用いたバイタ ルサイン測定)
29	救急隊現場活動(5)	バイタルサインの測定(初期評価、資機材を用いたバイタ ルサイン測定)
30	救急隊現場活動(6)	バイタルサインの測定(初期評価、資機材を用いたバイタ ルサイン測定)
31	山岳研修(1)	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
32	山岳研修(2)	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
33	山岳研修(3)	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
34	山岳研修(4)	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトー タルに実践
35	救急隊現場活動 (7)	気道確保(口腔内清拭、吸引、異物除去) 用手気道確保
36	救急隊現場活動(8)	エアウエイ、酸素投与、器具による人工呼吸、補助呼吸
37	救急隊現場活動(9)	胸骨圧迫(成人、小児、乳児、新生児)
38	救急隊現場活動(10)	胸骨圧迫(成人)
39	救急隊現場活動(11)	BVM による人工呼吸
40	救急隊現場活動(12)	BVM による人工呼吸
41	救急隊現場活動(13)	胸骨圧迫と人工呼吸
42	救急隊現場活動(14)	胸骨圧迫と人工呼吸
43	確認試験	胸骨圧迫と人工呼吸
44	確認試験	胸骨圧迫と人工呼吸
45	ライフセービング (1)	海での救助
46	ライフセービング(2)	海での救助

授業科目	基礎演習 A	担当 教員	非常勤講	師	救急救命士として救急業務に従
1文米11口	<b>全</b> 嵷次日 7	実務 経験	有:	無:	事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	基礎演	習 B			担当教員	阿部 鯛一				
対象年次・学期	1年・前	 前期		必何		必修	単位数			
授業形態					授業回数	45 回	時間数	90 時間		
授業目的	救急救症 処置を			集団行	<b>丁動を体験し習</b>	得する。各種搬送	<u>'</u> 法・創傷処」	置等の基本的な		
到達目標	る。					体位管理・保温・ を通じてチームと	-			
テキスト・ 参考図書等	・救急	<ul><li>・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト</li><li>・救急資器材管理マニュアル</li><li>・救急技術マニュアル</li><li>・その他</li></ul>								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		80							
評価方法・	レポー		0							
評価基準	評価基準 小テスト 20				式験・項目ごと	:に行う効果測定領	音を基に総合	的に評価する。		
	提出物									
履修上の 留意事項	各種実	の他 0 │ 0 │ 種実習での体験を通じて各種基本を習得する。各個の動作一隊として一団体行動と、規律ある動をすること。清潔感(服装・頭髪等)、規律ある行動に十分配意すること。								
	回		履修主題		履修内容					
履修工題。	1	オリコ	エンテーション (	1)	はじめに(基礎演習全般の説明・頭髪、爪、服装につい て)					
	2	オリコ	エンテーション (	2)	号令要領、番号のかけ方(人員確認) 整列の仕方(基本 の姿勢、整列休めの姿勢)					
	3	訓練ネ	L式 (1)		小隊編成(横隊の集合要領、横隊の整頓、横隊の右(左) 向き、解散)					
	4	訓練ネ	L式(2)		敬礼動作(挙手注目の敬礼、最敬礼、15 度の敬礼、かし ら中(右、左))					
	5	訓練ネ	L式(3)		右(左)向け、半ば右(左)向け、後ろ向き(まわれ右)					
	6	訓練ネ	L式(4)		かけ足行進・停止、職員室入退室要領					
	7	訓練ネ	L式(5)		通常点検要領					
	8	訓練ネ	L式(6)		通常点検要領					
	9		プ結索 (1)		基本結索(本   二重もやい約	x結び、巻き結び、 もび)	ひとえ結び	、もやい結び、		
	10		プ結索 (2)			結び、巻き結び、	ひとえ結び	、もやい結び、		
	11		プ結索 (3)		器具結索(加	ボンベ、かけや、作	也)			
	12		プ結索 (4)		器具結索(加	「ンベ、かけや、何	也)			
	13	確認語	式験		訓練礼式・口	]ープ結索				
	14	確認記	式験		訓練礼式・口	]ープ結索				
	15	創傷の	D処置(1)		三角巾を使用	目した固定・被覆	・止血処置			
	16	創傷の	D処置 (2)		骨折の処置 ( 定	〔副木固定 〕 バキ	ュームスプリ	リントによる固		
	17	各種的	般送法(1)		メインストレッチャー、サブストレッチャー					
	18	各種的	般送法 (2)		スクープストレッチャー、布担架					
	19	傷病者	舌の管理(1)		体位の管理(仰臥位、坐位、腹臥位、側臥位、ショック体位)					
	20	傷病者	首の管理(2)		頸椎カラー固定、全身固定					

21	各種搬送法(1)	徒手搬送(支持搬送・抱き上げ搬送)
22	各種搬送法 (2)	応急担架(毛布・衣服・棒) 傾斜のある場所での搬送
23	確認試験	各種創傷の処置、搬送法、体位管理の確認
24	確認試験	各種創傷の処置、搬送法、体位管理の確認
25	救急隊現場活動(1)	傷病者接触までの確認事項(情報共有、環境観察、傷病者 の確認)
26	救急隊現場活動(2)	問診と聴取(OPQRST、SAMPLER を使用した問診)
27	救急隊現場活動(3)	バイタルサインの測定(初期評価、資機材を用いたバイタ ルサイン測定)
28	救急隊現場活動(4)	バイタルサインの測定(初期評価、資機材を用いたバイタ ルサイン測定)
29	救急隊現場活動(5)	バイタルサインの測定(初期評価、資機材を用いたバイタ ルサイン測定)
30	救急隊現場活動(6)	バイタルサインの測定(初期評価、資機材を用いたバイタ ルサイン測定)
31	山岳研修(1)	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
32	山岳研修(2)	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
33	山岳研修(3)	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
34	山岳研修(4)	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトー タルに実践
35	救急隊現場活動 (7)	気道確保(口腔内清拭、吸引、異物除去) 用手気道確保
36	救急隊現場活動(8)	エアウエイ、酸素投与、器具による人工呼吸、補助呼吸
37	救急隊現場活動(9)	胸骨圧迫(成人、小児、乳児、新生児)
38	救急隊現場活動(10)	胸骨圧迫(成人)
39	救急隊現場活動(11)	BVM による人工呼吸
40	救急隊現場活動(12)	BVM による人工呼吸
41	救急隊現場活動(13)	胸骨圧迫と人工呼吸
42	救急隊現場活動(14)	胸骨圧迫と人工呼吸
43	確認試験	胸骨圧迫と人工呼吸
44	確認試験	胸骨圧迫と人工呼吸
45	ライフセービング (1)	海での救助
46	ライフセービング(2)	海での救助

授業科目	基礎演習 B	担当 教員	非常勤講	師	救急救命士として救急業務に従
1文米11口	<b>坐</b> 嵷,次日 D	実務 経験	有:	無:	事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	救急医療	寮概論 /	Ą		担当教員	阿部 鯛一			
対象年次・学期	1年・追	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	23 🛽	時間数		
授業目的						命士としての役害 にとって必要な基			
到達目標	活動の	ながれ、	救急活動におい	て必要	更な法令、コミ	災害医療体制につ ュニケーション、 概念について説明	安全管理と	事故対応、感染	
テキスト・ 参考図書等	・改訂	・改訂 第 11 版 救急救命士標準テキスト							
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		70	٠ ـ د ـ حــ	-DEA TO 12				
評価方法・	レポー		0		式験配分 病院前医療 80	0%			
評価基準	小テス	٢	30	• }	去医学 20%		+= /= L =		
	提出物		0	正期記	式験・小テスト	·等を基に総合的は	-評価する。		
履修上の 留意事項	豊富なる重要なる	豊富な救急医療経験を元に救急医療のいろはを学んでいく。 重要な科目なので、途中で効果測定を行い、目標到達度の					。 遅刻・「	中途退室の厳	
<b>尼收</b>			<u>履修主題</u>			履修	 内容		
履修主題・ 履修内容	1	救急救 (1)	対命士の現状と未	来	救急救命士発展の歴史				
	2	` /	攻命士の現状と未	来	救急救命士の活躍				
	3		選択の自由につい	τ	職業としての	)救急救命士につい の救急救命士につい	17		
	4	人間性	生と自立について		救急救命士に必要な人間性とは何か				
	5	救急图	医療人としての活	躍	世界の救急医療体制と日本の現状				
	6	現場で	で活躍する救急救	命士	消防機関で活躍する救急救命士				
	7	成長乳	隆達 (1)		発達の区分				
	8	成長乳	隆達(2)		各発達の理解(グループワーク)				
	9	成長乳	Ě達(3)		各発達の理解(グループワーク)				
	10	成長乳	Ě達 (4)		発表				
	11	救急图	医療体制		病院前医療、	救急医療システム	4、救急医療	体制の一元化	
	12	病院前	<b></b> <b> </b>		救命の連鎖、	市民による一次を	效命処置		
	13		<b></b> <b> </b>		メディカルコ	コントロール			
	14	消防機 の流れ	機関における救急 ι	 活動		:通信体制、救急流	舌動の記録		
	15	救急素	対命士と傷病者の	関係		ιニケーション			
	16	救急救	枚命士に関連する	法令	救急救命士法 医療法	长、医師法、保健的	<b>市助産師看護</b>	師法、消防法、	
	17	救急救 育	牧命士の養成と生	涯教	救急救命士の養成課程と生涯教育、病院実習				
	18	安全管	管理と事故対応		安全管理、傷病者の事故、救急救命士等の事故				
	19	感染文	対策		感染予防策、感染事故と対応				
	20	ストレ メント	νスに対するマネ ►	ージ	救急活動でのストレス				

21	法医学(1)	法医学の分野 ( 死体の検案および解剖、自然死と異常 死 )、死の概念		
22	法医学(2)	死体現象(早期死体現象。後期死体現象、特殊な死体現象)		
23	法医学(3)	窒息、損傷、凍死について		
24				

授業科目	救急医療概論 A	担当 教員	川島	清志	看護師として救急医療に従事し、
	火心区源似洲人	実務 経験	有:	無:	当該科目の教育を行う。
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			